

# 教える秘訣

中学科編



教  
え  
る  
秘  
訣

中  
学  
科  
編

アイリス・スペンス著

¥1,000

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

日曜学校部

教える秘訣  
中学科編

**JUNIOR HIGH WORKERS HANDBOOK**

by Jnez Mover Spence

Copyright© 1962 by the Gospel Publishing House  
Springfield, Missouri, U. S. A.

Translated by Akiei Ito

Published by Japan Assemblies of God  
Sunday School Department

1968

伊藤 栄 訳  
アイネス・M・スペンス 著

## はしがき

思わず惹きつけられて読み通させられたというのがこの原稿を手にとったときの感想である。本書は教師のための手引書であると共に、キリスト教教育に関心のあるすべての人々への興味深い、また暗示に富む指導書である。

教師はそれぞれ体験をもっている。救いの喜びと信仰生活の恵みである。神のお言葉は彼の全人格を新たにし、いきいきとした生活の源泉となっている。しかし、この神のお言葉をどのようにしたら委ねられている生徒に伝えることができるだろうか。本書はこの切実な問題に答えようとしている。そして必要を十分に満足させてくれるのである。

原著はさきに邦訳発行された「教える秘訣 幼・小学科編」と同じく、米国で好評をもって用いられている Sunday School Handbook のシリーズの中の一冊である。翻訳はキリスト教教育を研究された畏友伊藤顕栄師の手によるものであって、立派な訳者を提供して下さったことに対し心から感謝を献げたい。

一九六八年三月

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事

細井修一

## 教える秘訣 中学科編 目次

### はしがき

第一章 中学科	1
第二章 中学科教師	15
第三章 中学科生徒の考えと態度	25
第四章 文化的背景	34
第五章 学課の準備	46
第六章 授業	60
第七章 教室	78
第八章 中学生の獲得と保持	87
第九章 中学生と教会	100
第十章 目標の吟味と評価	108
訳者あとがき	123

## 第一章 中 学 科

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」(テモテ2一・七)

ある教会で熱心な日曜学校の校長が、日曜学校教師が必要なことを訴えて、こう言いました。「私は皆さんに靈的に成長し、深く物事を考え、自分のためになる学びをし、神の御栄光を現わすために与えられている能力を用いることの出来る機会を提供いたします。」

しかし人々の反応は「でも私には経験がありません。それに、もし中学科の主任にでもなったら、その仕事にずい分時間がとられてしまうと思います。私は忙しいのです」というようなものでした。

それに対して校長はこう答えました。「それはそうです。私は楽な仕事を提供しているわけではありません。それはあなた方の能力と関心と時間を必要とするものです。しかし、皆さんが払う犠牲に比べるとはるかに大きな報いがあります。中学科とは橋のようなものです。その上を、小学科から高校科へ行く途中の人々が通るのです。クリスチャンになる人は大抵十二才から十四才の間に入信をします。一方、中学か

ら高校の間に非常に大勢の人が教会や日曜学校から離れて行きます。ですから、この橋は永遠の真理と原則をもって建てられなければならないし、愛と理解という、丈夫なガードレールによって転げ落ちないようになくなくてはなりません。中学校の教師は、敵のあらゆる攻撃に対して警戒している歩哨のようなものです。」

これに応じて祈りのうちに人々の決意が定められました。そして、キリストが力と知恵を与えて下さることを信じて、一人の人は新しい中学校主任という神の与えられた責任を引き受けることにしました。その後疑問や問題の研究、更に観察や実験などを重ねてこの科はその機能を最高に発揮するものとなりました。そこで私たちも、この人たちの抱いた疑問とそれに対する解答をこれから見ていくことにいたしましょう。

その機能はどんなものですか？

方法はいろいろあります。絶えず、新しい、より良い方法が古い方法に取って代わります。しかし動機は常に同じでなければなりません。目的を単純に、はっきり理解しているならば、正しい動機と方向づけを容易にすることが出来ます。簡単に言えば、中学校の機能は、少年少女をキリストのために獲得し、形作り、訓練するということです。生徒はそれぞれ一人の人間です——非常に重要な、一人格です——から中学校は一人一人の必要を満たすように求め、努力しなければなりません。

その目標はどんなものですか？

目を閉じて中学校の少年少女たちを一人ずつ思い出してみてください。まず何が浮かんできますか？ 騒ぎ回っている姿ですか？ 悪ふざけをしているいたずらっ子ですか？ ふくれっつらですか？ それとも「我関せず」という態度ですか？ あの少女はいつもケラケラ笑っている軽卒な子に見えますか？ あの子は一人ぼっちで寂しそうに見えませんか？ こういう生徒、一人一人にあなたは明確な目標を持つのです。生徒は一人一人皆違います。しかし、どの生徒も指導と友情と個人的関心を必要としているのです。

私たちの主な目標は次の通りです。

一、中学生に救いの知識を与えること 主イエス・キリストが救い主であることを知らせ、キリストの命を強く示し、勧めます。

二、クリスチャン品性を成長させること 健全で安定したクリスチャン品性は、聖書研究や教理を教えることにより、成長させることが出来ます。しかしこれも又、人生の変動しやすい時期にある彼らを堅く保つ、しっかりとした基礎の上に立ったものでなければなりません。

三、神の言葉に対する信仰を確立させること 成長を続け、探究を続けている頭脳には、この変動し続ける世界において、神の言葉は不変である、その真理は永遠であるという確信を持たせることが必要です。

四、神を天の父として知らせること このことにより、神の力、愛、知恵を信じ、確信することが出来

るようになります。

五、祈りの力を学ばせること 中学生の生活の中で、個人的な祈りも、グループでの祈りも共に自然なものとならなければなりません。

六、宣教計画を知らせること 全世界に福音を伝えるために、自分に与えられている責任を果たすようにさせます。

七、教会に結び付けること 今が私たちの教会の基本的信仰を打ち込む絶好の時です。教会に規則正しく出席し、教会の活動に参加する習慣をつけるならば、中学校から高校科の間の脱落者をずい分防ぐことが出来るでしょう。

八、祖先からの嗣業を受けつがせること 少年少女たちに古くから教会に伝わっている賛美歌を教えることは、お金では買えない宝を与えることです。又、最も敬虔な形で礼拝を導くことにより、神の偉大な尊厳さと聖さを心の中に語ることを教えるのです。

中学校の年令は十二才から十五才までです。学校で言うなら中学一年から三年までです。日曜学校でも分級の方法を普通の学校と同じようにして成功している所が多いようです。たとえば中学一年生は日曜学校でも同じクラスに入れるのです。ただ一つの違いは男子と女子を別にした方がよいということです。そうすればクラスが小さくなりますが、大抵はこの方がよいのです。この学年別分級法の利点は、各クラスの生徒は中学校でも同じことを習っているのです、日曜学校の学課を同じ水準で学ぶことができるように、

同じような準備態勢が出来ているという点です。

生徒の年令によって分級する日曜学校もあります。その人たちは普通、生徒の成長は年令に応じたものですので、中学校の分級をこの方法でするのが実際的だと考えるのです。〔訳1〕

〔訳1〕 学年は普通、年令によって分けられているのだから、特殊な場合以外、これは考えなくても良いと思われる。

正しく分級することは強力な中学科を建てるための骨組のようなものです。いかげんな分級では満足な結果は得られません。小さな日曜学校も、大きな所と同じように、注意深く分級をきめるならば、多くの成果を得ることが出来るでしょう。

各クラスを管理するのは教師ですが、科全体は科の主任によって管理され、一致団結していくことが必要です。たとえばグループが小さくても監督責任者を立て、授業の計画をし、特別計画を立てることが必要です。科の主任こそ、このリーダーシップをとる人です。

組織はどのようにするのですか？

各クラスはそれぞれ独立した単位で、独自の活動や、関心を持つべきですが、科全体としての機能を忘れてはなりません。それには組織が必要です。小さな学校では、これは簡単に出来ることです。

二つに科別された学校

〔訳2〕

二つしか科のない学校では、中学科は高校科、青年科、成人科と一緒に礼拝をします。ですから中学科を頭に入れて開校礼拝を計画しなくてはなりません。いつもおとなの興味を引くようなことを中心にしていると、中学生にはつまらなくなります。開校礼拝を興味深く、刺激のあるものとしないう限り、それは単に、分級前に忍耐しなければならぬ、おきまりの時間になってしまいます。時には中学生に開校礼拝の司会をする機会を与えて下さい。もしプログラムの中で役割を与えられるなら、生徒は自分たちもこの科の一員であるという感じになるでしょう。開校礼拝の中に、生徒に訴えるものがあるなら、生徒は興味を覚え、協力する気になり、更に休まず出席しようという気持を持つようになるのです。

〔訳2〕これは小学生以下と中学生以上に分けている学校をさす。

### 三つに科別された学校

〔訳3〕

三つに科別された学校では、中学科は高校科と一緒に開校礼拝をします。ここでも注意をしないでありません。合同の時間の内容は中学生の程度を越えたものや、高校生にとって幼稚過ぎるものではないけません。両方のグループの興味を保つためには、平均のとれた、注意深い計画をしなくてはならないのです。

〔訳3〕成人科、中高科、小学科と分けてある学校のこと。

### 完全に科別された学校

高校生のクラスが二つ以上ある学校では高校科を設けるべきです。そして中学科は中学生だけを対象と

した開校礼拝をすることが出来るなら、そこには無限の可能性が出てきます。もし開校礼拝で生徒の興味を引き、更に保持するなら、分級の授業の空気も良いものとなるでしょう。

## 役員 の 職務

中学科の役員の務めはどんなものでしょうか？

### 科 主 任

最も大切なことは、この職務に適当な人を選ぶということです。その人には単に指導能力が必要であるだけでなく、中学生に対する心からの愛と理解がなければなりません。それに加えて、忍耐、不屈さ、インシアティブ、ビジョン、他の人々と協調して働く能力などが必要です。そして、それ以上に、キリストへの奉仕に対する絶えず変わらぬ献身がなくてはなりません。上手に指導するということには、研究と時間と努力が必要です。神は私たちが最善を尽くすだけでは満足されません。私たちが到達出来る最高の状態での最善を尽くす時のみ満足されるのです。

主任の職務は、科の働きを管理監督し、指導することです。主任は特別講師でもない限り、いつも開校礼拝を計画し、司会するのです。主任は教師たちと密接な関係を保つことにより、必要をあらかじめ見抜き、問題を分け合い、適当な研究材料を提供出来るようであればなりません。主任は教師たちと役員

たちの定期的会合の責任を持たなくてはなりません。また日曜学校の校長と共に働き、学校全体の目標や計画に協力をするべきです。また生徒に対しては、一人一人に関心を持って良い友であるべきです。そしていつでも彼らを助け、カウンセリングをする用意がなければなりません。

主任は新しい方法や教具を見つげるためにも、最新の日曜学校に関する雑誌や書物に通じていることが必要です。教区や全国的にもたれる日曜学校教師の大会や講習会は、この年令の人たちを対象に働いている他の人々と意見や知識を交換するのに、最も良い機会だと思います。そうすれば、何でもただ習慣的に行なうということはなくなるでしょう。科の主任はまたいつも新しい教師や働き手になる人々をスパイのように捜し求めていなければなりません。

教師の訓練は幾ら強調しても、強調し過ぎることはありません。熟練した講師陣を揃えた、良く整ったプログラムは教師たちを訓練し、鼓舞するのに非常に役立つものです。このような講座は少なくとも一年に一度は開かねばなりません。大抵の都市では、幾つかの日曜学校が合同して大規模にやることによって更に興味を増し加えることが出来るようです。また教師大会、通信講座、その他、種々の訓練の方法を効果的に用いたら良いと思います。

#### 科 副 主 任

名前の通り、副主任は主任を補佐して、種々の活動を行ない、効果的な組織を保っていくべき人です。資格は主任の場合と同じで、主任のいない時には主任の職務を引き受けるのです。科の計画は絶対にこの

二人が一緒にしなくてはなりません。

教勢増加の全責任は副主任が負うべきです。即ち、副主任が科やクラスの出席増加計画の目標を立てるのです。そして彼の指導のもとに欠席者対策が決定されるのです。毎週の訪問計画も副主任の責任です。しかし副主任に与えられている一番重要な務めは、新しい生徒を獲得するために、組織立った計画を立て実行していくことです。それには、毎年、近隣の家庭調査をし、近くに転入してきた家庭を訪問し、生徒に学友を連れてくるように集中的に努力させたり、新人を招待するための特別集会や計画をたてたりすることが必要です。

親しみ深いということは伝染するものです。親しみのある中学科は生徒を引きつけ、また保つものです。副主任には更に生徒が来た時に挨拶して迎えるという楽しい職務があります。毎日曜日、新しく来た人や訪問客の名前を書記から受け取って、歓迎するのも副主任の務めです。

#### 書 記

記録は良く実状を語ってくれます。普通、学校では生徒一人一人の記録が保存されています。出席、成績、人格的成長、功績など、全部が、その生徒の成就したことなどを示しています。科の書記は単に命のない数字だけを見るものではありません。単なる記録のための記録は役に立ちません。しかしそれが靈的情報を提供するために記録されるならば、非常に価値あるものとなるのです。ですから書記は丁寧に、正確な記録をとるのに熟練した、誠実なクリスチャンでなくてはなりません。



〔訳4〕では六ポイント式記録を見、それがクリスチャン品性を向上させるためにどのような価値を持っているかを見てみましょう。

〔訳4〕単に出席をとるだけでなく、次に示す六つの項目を毎日曜日記録する方法で、小学上級科以上で採用すべき方法である。

一、出席 不規則な出席が注意されずに放置されるなら、神の働きが軽視されるようになります。信頼のおける、しっかりした人物は、日曜学校でも、学校でも、仕事でも、規則正しく出席するものです。こういう生活の型が中学科では形作られていくのです。

二、時間厳守 いつも遅刻するということは不注意とだらしなさのしるしです。そういう人は信頼されなくなります。遅刻の反対——時間厳守——は勧めるべきことです。

三、学科の準備 興味と、学びたいという願いが、良い学習の習慣を造り上げます。日曜学校の学課の予習は、週間の学校の予習と同じように、生徒にとって当り前の習慣にならなければなりません。

四、献金 ささげることは真のクリスチャンのしるしです。中学科の生徒にはささげ物についての訓練を与え、十分の一献金に関する聖書の教えを理解させることが必要です。また、献金が教会や日曜学校でどのように用いられるかがわかれば、更にささげる励ましになるでしょう。

五、教会出席 教会に規則正しく出席すれば、失われる危険性は少なくなります。教会と日曜学校の働きを通じて、礼拝と学びのバランスが保たれなくてはなりません。

六、聖書持参 ある中学生が「なぜ先生は、クラスで聖書を使わせてくれないのだろう」と言いました。本当になぜでしょう？ ただ点教のために聖書を持ってこさせるのではなく、聖書をテキストとして正しい位置付けをすることが必要です。中学科の生徒には、神の言葉には絶対的な権威があること、又その真理を良く知らなければならぬことを教え込まなければなりません。

#### ピアノリスト

〔訳5〕 静かな音楽は礼拝のムードを作ります。礼拝への招きとして静かにひいて、それを静まる合図にすることが出来ます。科のピアノリストを人選する場合には、その人の能力と信頼性を共に考えなければなりません。音楽を正確にひく能力と司会者に従う能力はピアノリストに必要な二つの条件です。

〔訳5〕 日本の実情ではオルガニストと言葉を変えて考えるところである。

#### 司会者

礼拝を生徒に訴えるものにするためには、音楽が大きな役割を果たします。それに中学科の生徒は歌を歌うのが好きです。もし音楽が効果的ならば、礼拝に対する備えられた気持と、礼拝の重要性に対する意識が生じてきます。歌は始まる前に全部選んでおき、司会者は早目に来て、準備万端を整えておかなければなりません。気持を鼓舞するようなコーラスや元気の良い歌もそれなりに重要ですが、教会伝来の賛美歌もないがしろにははいけません。それらには重要な役割があるのです。

クラスの組織はどうしますか？

小学校では非常に早くから簡単な会議法の規則を教えて、学級会を指導する機会を与えています。ですから中学生は驚くほど上手に討論を導き、正しい投票によって物事の決定をし、クラスの計画を推進することが出来ます。

中学科のクラスの組織は簡単で良いのです。リーダーとしての責任が与えられることにより、しばしば、問題の生徒が秩序を整え、一同の注意力をまとめるような良い感化を与える生徒に変えられていきます。それは適切な方向にエネルギーの発散を導くことにより、学課を学ぶ興味をつのらせ、クラスの諸活動に協力させることが出来るからです。クラスでは次の役員を選ぶようにしたら良いでしょう。

**委員長** いつも教師はこの役員と密接に働くのです。二人は一緒にクラスの目標やクラスの標準を計画するのです。そして委員長はクラスの会合（学級会）の議長を務めるのです。

**副委員長** この役員にはクラスに來た新しい生徒や、訪問客を歓迎するように教えて下さい。また、副委員長は教師と一緒に、クラスの諸計画、親睦会などに関する働きをします。

**書記** クラスの記録をとり、クラスの会合の議事録をとることが書記の主な務めです。この役に選ばれた生徒はいつも出席し、きちんと記録のとれる人でなくてはなりません。

**班長** 教師に助手がいる場合、中学科のクラスは最高十五名まで入れられます。そうすれば生徒を全員知ることが出来るし、生徒も親しい交わりをお互いに行うことが出来ます。小さなクラスの方が欠席者が

少ないということが既に実証されています。更にクラスを四、五人を単位とした班に分け、班長を選ぶようにします。班長は教師の監督の下で欠席者や、来る可能性のある人々を訪問するのです。班長は又、欠席者にカードを送ったり、訪問客に再び来訪するように誘いの手紙を送るのです。しかし、一番大切なことはクラスの標準を保とうとクラス全体が熱心になるように導く班長の能力なのです。

もち論クラス委員たちに割り当てた仕事を、教師は自分でした方がより速く、効果的にすることが出来ます。だからと言って教師が全部してしまつては、効果が無くなります。クラスの責任を生徒に持たせることによって彼らの関心と協力を得ることが出来るのです。生徒の協力というものは教師が忍耐強く監督しなくてはならないとしても、それだけの価値があるものです。

「良い仕事をしてもらいたければ、忙しい人に頼みなさい」というのを聞いたことがあるでしょう。なぜでしょう？ それは、ときばきと仕事をする忙しい人たちは、時間を上手に使う方法を習得しているからです。神は公平に、私たち一人一人に毎日二十四時間という時間を贈物として下さっています。その中には奉仕と成功の無限の可能性が含まれています。教師は二十四時間の中から、自分に必要な休息と、仕事の時間を差し引いて、そのあとの時間から毎日一定の時間を中学科の働きのためにとるようにして下さい。そしてその時間を学びと祈りと連絡のために神にささげた時間と考え、用いて下さい。短い時間でも毎日規則正しく用いるなら、驚くほど多くの事を完成することが出来るのです。

- 一、中学科の機能を述べなさい。
- 二、その第一の目標は何ですか？
- 三、中学科の区分は学年別が良いですか、それとも年令別が良いですか？ 理由を説明しなさい。
- 四、科の役員の職務を記しなさい。
- 五、六ポイント式記録を用いる場合の利点をあげなさい。それはどのような面で品性を形作ることが出来ますか？
- 六、なぜクラスに組織を作るべきですか？
- 七、なぜ中学科では男女別にするべきですか？ 又、小さなクラスの利点は何ですか？

## 第二章 中学科教師

「主の僕たる者は……だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍ぶ……べきである。」(テモテ2二・二四、二五)

マリオン・ローレンスはだれよりもうまく次のように言っています。「最大の必要は、全頭脳を学課の準備に使い、全魂をその提示に用い、全生活をその説明に用いる、訓練された日曜学校教師である。」

教師とはがっしりしたかしの木のようなものです。それは一日で大きくなりません。思想をはっきり表現する能力はある人は他の人より早く身につけます。しかし教えるということは実際に学びとることなのです。しかし、だれにでももし学びたいという心からの願いと、それに伴う決意とたゆまぬ努力があるなら、驚くべきことが出来るのです。願いと意志が共に働く時に、技術と確信が成長、増加していくのです。

教師というのは、だれかほかの人が学ぶのを助ける人のことです。教えるということには幾つかの簡単な、基本的な法則があります。それらを効果的に用いる方法を教師はまず学ばなければなりません。教師というものは、聴衆の前の講師のように、自分の知識の倉を生徒の前に全部さらけ出すものではありません。愛と祈りに満たされ、学課の準備を整えた教師は、一人一人の生徒の中に何かが起こることを唯一の目的としています。ですからそのような教師は、生徒の日々の必要を満たすように聖書の真理を示すのです。イエス・キリストはきのうも今日もいつまでも変わることがありません。ですから、今の時代の問題で

も主に解決出来ないものは何もないはずで。

では良い教師の資格はどんなものでしょうか？

中学科教師には何が必要であるかを知りたいと思って、ある新任の中学科主任が日曜日の朝、生徒たちに挨拶をしました。そして鉛筆と紙を与えて、「あなた方の日曜学校教師に一番望むことを書きなさい」と言いました。その答は短いものでしたが、皆、次のように当を得たものでした。

- 一、先生には聖書を良く知ってもらい、聖書を面白いものにしてほしいと思います。
- 二、先生には友だちになってもらいたいと思います。そして信頼を裏切らないでほしいと思います。
- 三、先生は見た目にもきれいで、一緒にいて楽しい人になってもらいたいと思います。
- 四、先生は私たちを愛してくれて、私たちが好きだということを示してくれる人でなければ駄目です。
- 五、ユーモアのない先生はほしくありません。
- 六、良い先生は自分の疑問だけでなく、私たちの持つ疑問を私たちの立場から見てください。
- 七、先生は授業以外の時にも私たちと楽しく過ごしてくれるはずだと思います。
- 八、例話に「おセンチな話」をする先生はきらいです。

以上のような中学生徒の公平で率直な意見によって、良い教師というものの姿が適切に描写されています。さてそこで、おとなの考えをもって教師の資格を考えてみましょう。

## 教師の資格

一、**新生の体験** 教師は言葉や行ないよりも、人物そのものによって、より多くの事を教えるものですから、教師自身、主イエス・キリストとの個人的関係を持っていなければなりません。自分の持っているものを人に与えることは出来ません。霊的力の源に近づくことの出来ない教師は、生徒が必要としている霊的助けを与えることが出来ません。中学科の生徒一人一人に、自分たちの先生は、確かに救われ、献身し、御霊に満たされているという証拠があるということを知らせることが必要です。意識的にも無意識的にも教師は生命に感化を与えるのです。教えるということの裏には常に生きることが伴っているからです。生きた見本こそ教師が示すことの出来る最善の学課なのです。

二、**立派なクリスチャン品性** まじめさ、信頼性、正直などは皆、立派な品性のしるしです。それらに對して他の人々は尊敬と信頼を示します。クリスチャンは人々と公正な取引をしなくてはならないし、又その言葉は契約書と同じように確実なものでなければなりません。しかしクリスチャンの品性はそれよりも更に深く、より進んだものでなければなりません。聖霊の柔らかな圧力はうわさや批判をしないように教師の唇を閉ざします。公平な考えや、人の意見を聞き入れる広い心などが、その行動や決断に反映されるべきです。「先生は言ったことを守る」ということは「先生は立派な人だ」ということの、中学生流の言い方なのです。

三、目的をもった洞察力 あなたが生徒の前に立った最初の日曜日のことを覚えていますか？物珍らしげに大きな目を見開いた中学科の生徒たちはあなたをじっと見つめたでしょう。この先生は面白いだろうか、それとも最高につまらないだろうか、秩序を守るのに厳しいだろうか、それとも手ぬるいだろうか、好きになれるだろうか、それともどの位いや気がさすだろうかなどと、注意深く調査し、計算しているように感じただしょう。実際にあなたはそこに何をみましたか？あなたの努力に対しわずかに興味を示した八人か十人の若い顔、ある生徒は自分たちのおしゃべりに完全に夢中になっており、ある生徒は明らかに退屈であることを示したり、かがみ込んでいたずらをしていたのではありませんか？多分そうでしょう。では今はどうですか？愛の心を持った教師には特別な視力が与えられるのです。そして一人一人の生徒に迫り、一人一人の持つ可能性を認めながらその生徒を見るようにさせられます。その視力は、キリストが生徒の命を支配した場合に現われる測り知れない可能性を描いて見ます。また、現在の問題に対しては神の言葉と聖霊の力は御旨を一人一人の心の中に実現して下さるという希望と確信をもって見るようにさせてくれます。更にあの不機嫌さと無関心さの陰に隠されている、現実の悩みを持った少年の心を見通すのです。この信仰と愛の視力は、教師の努力に目的と方向づけを与えてくれるのです。

四、理想 教育は少年少女に論理的に考えることを教えます。しかしこの冷たい合理主義によって、霊的なことや理想的なことを失ってはいけません。清い心や崇高な道徳的標準が例外ではなく、当然なこととならなくてはなりません。そのためにうまずたゆまず、執拗に中学科の教師はこの標準を生徒の前に掲

げて示さねばなりません。メッキも金も共にピカピカ光ります。しかし少年たちに、本物をにせ物と交換したり、高価な物を安っぽい物と交換したり、最高のものを低い標準と交換するべきでないことを示してあげなければなりません。教師は、更に最高の価値を持っているものについてはっきりとした確信を植えつけ、また、それを育てなければなりません。少年たちはまだ物の真の価値を分析することが、良く出来ません。生徒たちの学校では、この世的な標準が彼らを取り巻いています。そしてある生徒たちには、霊的標準を示してくれるものは日曜学校か教会以外に何も無いのです。

五、生徒に対する愛 「このうちで最も大いなるものは、愛である」と言った時、パウロは人を引きつける愛の力のことを考えていたのです。教師は愛の永遠的、霊的価値を新しく理解することなしに、キリストと顔と顔を合わせて会うことは出来ません。愛、同情、親切というのは不思議な言葉です。

ある悩む中学科教師が「私には愛らしくない、手に負えない生徒を愛することは出来ません」と告白しました。その時、一人の年とったクリスチャンがこの秘訣を教えてくださいました。「だれにでも立派な、愛すべき点があるものです。生徒を今、現在の姿でなく、キリストがその心を支配したらどうなるかというふうに見る練習をしないさい。神様の広大な愛の倉に手を伸ばしてあなたの友情や、あなたの理解に満ちた愛を必要としているこの少年に少し、あの少女に少しと愛を集めてきなさい。」若い教師はその忠告に従い本当にそうであることがわかりました。

真実の愛と上べだけの愛ほど、すぐに中学科の生徒によって感知され、見分けられるものではありません。

表面的には時に全く逆であっても、少年少女の心の中にはおとなの友だちや忠告を与えてくれる人を必要とし、求める気持があるのです。離婚した家庭の子供も多いでしょうし、そのような子供たちは不安で寂しく感じているのです。ある子供たちは口論や醜いけんかによって不幸になっている家庭から来ています。良い環境の、幸福な少年少女でさえ、教師の真実な愛と関心が必要なのです。それがなければ、授業には暖かみと個人的な訴える力が伴いません。しかし中には授業の言葉は忘れられてしまった後でも、なお愛と親切をなつかしく思い出ししてもらえぬ教師たちも大勢いるのです。生徒たちから尊敬され、愛されぬ教師は生徒たちに一生残るような感化を与えることは出来ません。

六、努力する意志 人間は潜在的に持っている可能性にまで到達出来るということをおあなたは考えたことがありますか？ 人生における価値あるものには皆、それを作り出すために支払った代価というものがあります。それと同様に良い教師というものは絶えざる研究と練習と、たゆまぬ努力の結果出来る上がるものです。そのような教師は常に、正しい研究の習慣、時間をうまく配分することと自己訓練を身につけています。おとなは学ぶのには年をとり過ぎていくという古い言い伝えは今日では否定されています。成人教育によって、おとなは積極的に学ぶことが出来、更に学んだ知識を保ち続けることが出来るのが証明されています。神があなたと共に働いて下さるということ、あなたの努力を神は認め、祝福して下さるということを忘れないで下さい。中学校の教師の生活には、怠惰とか自己中心主義などのはいる余地は無いはずで、自分の時間、力、更に自分自身までささげるということは教師にとって多くの自己否定

が必要で、しかしそれだけのことはあるのです。そこには他の人々を助けたという喜びや、働きを最高に成し遂げた満足というような豊かな報いがあるのです。

### 人 格 的 条 件

良い教師の人格的条件はどんなものでしょうか？

教師の人格が生徒の宗教生活に影響を与える重要な要素の一つであることは確かです。では人格とは何を意味するのでしょうか？ 人格とはその人の命を形作っている特質の総計です。それは真実のあなたを表わす、あなたの内にある自分なのです。良い顔立ち、立派な態度、才能というものは皆、それを強めるものですが、しかし人格とはあなたの中で成長するものなのです。それは魂の輝きです。あらゆる望ましい特性を全部備えている人はおりません。しかし、人格とは既に決まってしまうものではなく、更に成長し、変化し、発展していくものであるということは、私たちにあって励めであり、励ましであります。私たちは遭遇する体験に対して、反応を示します。その時、私たちの人格が私たちの考えや品性に反映されるのです。あなたの態度というものは、あなたの霊的、感情的自己の反映であるということです。クリスチャンである教師は皆、最も素晴らしい人格的条件を開発する力を自分たちの中に持っているのです。と同時に望ましくない品性に打ち勝つ力も持っているのです。

あとに出てくる表を学ぶ前に、あなた自身にとって最も重要だと思われる人格的条件を書き出して下さい。自分で弱いと思う分野を良く調べ、それから、それを強くし、発展させるためにどのように努力

をするか、書いてみて下さい。たとえばある生徒は、もう我慢が出来ないという所まであなたをためすかも知れません。「私は忍耐をしましょう」と言っているだけでは問題の解決は出来ません。そこでこの生徒があなたをいら立たせる方法を書き出して下さい。それからその理由を捜して下さい。その生徒はわざとそうするのですか？ あなたは肉体的に特に疲労していますか？ 個人的な問題であなたは悩んでいますか？ あなたは学課の中の真理を言い表わそうと苦労して、その生徒の無関心に反感を感じているではありませんか？ その生徒をどの位良く知っていますか？ その生徒はただ不注意なのでしょうか？ それともクラスとは全然関係のないあることで反抗心を示しているのでしょうか？

次に公平な考え方をすることを研究して下さい。それから静かに神に、知恵を与えて下さるよう求めして下さい。また、言うことを良く聞くクラスに出来るように助けて下さいとお願ひして下さい。そしてその生徒に、あなたが彼を一人の人間として愛しているということを知らせてあげるのであります。その生徒との友情が育てば育つほど、彼の必要としているものが何であるかがわかってくるのです。そして理解が出来るれば、必要な忍耐を持つことが出来るようになるのです。

次の特質は十代の少年少女が、指導者にとって最も大切なものとしてあげたものです。あなた自身、ほかの人々のことを考えながらこれに更に更に加えてみて下さい。そしてそのリストを、あなたの中に育てなければならぬ品性の一覧表として毎日、照らし合わせながら、快活で愛される中学科教師となるようにして下さい。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 楽しそうにしていること | 思いやり深いこと   |
| ユーモアがあること   | 人づきの良いこと   |
| 熱心であること     | 礼儀正しいこと    |
| 皆勤であること     | 心地良い声であること |
| きちんとした身なり   | 博学であること    |
| 時間を守ること     | 忍耐強いこと     |
| 自分を抑制出来ること  | 謙遜なこと      |
| 公平であること     | 勇気があること    |
| 公正であること     | 親しみがあること   |
| 誠実であること     | 気転と分別のあること |

更に次の事で失敗しないように、特に「注意」というしるしをつけておいて下さい。

一、服装をきちんとすることは絶対に必要なことです。しかしことさらに目立つことは避けて下さい。余り目立つことは何でもかえって心を乱し、気を散らすことになります。あなたの身なりを気持の良いものにしないでなりません、あなたの授業の言葉は更に気持良いものとして生徒の心に受け入れられていくものでなければなりません。

二、調査をして下さい。あなたには無意識のうちに、生徒の注意を引くようなくせが何かありませんか

？ 神経質な仕ぐさや、一言ごとに「あー」と言うようなくせは、言おうとしていることを邪魔する結果になります。静かに、姿勢正しく立って、はっきりと話をし、楽な気分であることが大切です。

三、天気が悪かったり、雨の場合は特に、冴えない色の服は着ないことです。スマートで楽しげな装いは、生徒までも楽しくさせるものです。あなた自身の気持も晴れ晴れとするでしょう。

四、日曜学校と教会に忠実に出席して下さい。「このクラスを教えるのは私にとっては無上の光栄です」などと口で言っても、欠席ばかりしているのでは、生徒たちにそのことを納得させることは無理でしょう。

## 質 問

- 一、「教師」という言葉をどのように理解するか、定義づけなさい。
- 二、良い教師の条件を、重要だと思ふ順にあげなさい。
- 三、教師が成功するためにはどのような人格的条件を備えなくてはならないと思ひますか？
- 四、あなたの生徒の中に、どのような霊的品性が形作られることをあなたは願っていますか？
- 五、あなたは教師として満足していますか？ 満足でなければ、あなたは自分自身を向上させるために何をしていますか？

## 第三章 中学科生徒の考えと態度

「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ。」(箴言二四・三)

### 中学科生徒の考え

最近いろんな感情が僕の心の中にごちゃごちゃにはいり込んでくる。余り沢山の新しい考えがはいってくるので、僕は自分でも混乱してしまい、少しこわくなってしまふ。小学校の時代は過ぎてしまったし、高校の時代が前に控えていて、僕はその二つの時代に挟まれたような感じだ。時々僕は、六年生の時のような気持になるかと思うと、次の瞬間には考えの中にも、おとなになりつつあるのを感じる。しかし僕の行動はぐらぐらしている。自分でも自分のことがはっきりしないのだ。時には神様のことがはっきりわかるけれども又、時には疑いの気持になったり、多くの事について疑問を感じるので、何か罪深いような感じがする。日曜学校の学課が一番自分に必要な時にも、興味が無いようなふりをして先生を困らせたりする。家族にも同じだ。すぐに気が変わったり、すぐに怒ったりするのだ。僕には余りにもわからない事が



沢山ある。特に僕は、僕という人間を理解したいと思う。日曜学校の先生は聖書のことを沢山知っているから、中学生の事についても沢山知っているかも知れない。僕は先生が友だちになってくれて、こういう疑問を解決してくれたらいいなあと思う。

### 中学校教師の考え

やっと日曜学校の時間が終わったけれども、私は全く疲れ果て、がっかりしてしまった。先週の日曜日の生徒たちは素晴らしかった。良く注意して話を聞いたし、応答もしたし、提案した計画に対しても熱心に賛成してくれた。ところが今日は全然興味を示さないし、騒がしいし、あの計画についても覚えていないような様子だった。明らかにグループが出来て、仲間はずれにされた何人かは傷つけられたようだった。彼らには日々の実際生活の助けになるような学課が必要なことは確かだが、私は一体どのようにして彼らの心に触れることが出来るのだろうか？ あの子たちは、おとなは皆、物すごく年とっていて、古くさい考えを持っていると思うようだ。私は中学生のことが全然わからない。ここに私の問題があるのかも知れない。私は彼らの行動の陰にある原因を理解する必要があるのだ。彼らは子供から十代の青少年に変わりつつあるということは確かだ。この時期に、こういう中間の人々には私の忍耐と理解が特に必要なかも知れない。私はあらゆる努力をして、解答を捜し出してみることにしよう。

### なぜ中学生生徒は自意識的なのですか？

この期間における生徒の肉体的変化と生長は非常に急激です。男の子たちは自分の手の不器用さや、足のぎこちなさを感じます。女の子は男の子より更に急激に成熟しますので、自分の体重や身長のことですぐに不快に思っていることが多いのです。顔形の変化や声変わりはこれら青年初期の人々にとっては大異変のように思えるのです。

男の子たちは女の子たちの前で「見せびらかし」をするようになり、女の子たちが尊敬の意味でくすくす笑いをすれば、それで完全に報いられたように感じ、満足をします。彼らの間では冗談や悪ふざけが特に評判が良いようです。しかし教師は彼らの思い切った行動を上手に無視し、又彼らを困らせないように注意しながら、彼らを落ち着かせるようなことを幾つもすることが出来るはずで

家庭では、家族は男の中学生を驚きの目で見ています。それは人間の皮をかぶった食欲の塊だと言う表現がぴったりだからです。これは健康なしるしでありませんが、しばしばこれには怠ける期間がついてくるのです。皿洗いや芝刈りなど家事の手伝いになるとアレルギ(訳1)になる中学生が多いのです。しかし別の時には非常に良い助手になり、その何でも出来ることには驚かされてしまいます。自分たちの新しい体を意識しながらも、良く理解出来ないでいる彼らを、おとなは理解をし、忍耐をしてあげなければなりません。ぎこちなさを笑ってはいけません。自分でおかしがっているなら一緒ににおかしがって構いません。しかし決して馬鹿にし、あざ笑ってはいけません。

〔訳1〕卵にアレルギー、花粉にアレルギーという具合に、仕事に対してもアレルギーと称して、避けようとすることを意味する。

正常な、神の御計画による性意識がこの年令で始まります。先週一緒にかけっこをして遊んだ相手が、今突然、きれいな目と髪の毛の少女になるのです。へびやいも虫をつかむからと言っていやがっていた少年が突如として、魅力的な、友だちとして誇らしい少年になるのです。このような意識と共に、まじめにまた率直に答えてあげなければならぬ質問が湧いてきます。人生の神聖な事実について両親と話し合える中学校の少年少女たちは幸いです。今日では大抵の公立校で性教育をしています。それはこの問題に関するキリスト教的取り扱いに比べることが出来ないほど低いものです。もし日曜学校の教師は生徒にカウンセリングを求められたなら、単刀直入、協力援助する態度をもって質問に答える準備を整えておくことが大切です。

なぜ中学生徒は情緒的に不安定なのですか？

ある夕方、一人の中学校の少女が日曜学校の教師を尋ねて来ました。この少女は良く日曜学校に来ていたのですが、この日はとりわけ、先生と二人だけで話し合いたいと言うのでした。そこで話を聞くと、涙を流しながら「私はもらい子だと思えます」と言い出しました。教師は笑いたくなる衝動を急いで飲みこみました。その少女は若い時のお母さん生き写しですし、お姉さんもお兄さんも顔つきなど良く似ているか

らです。

教師は「そう。あなたは どうして そう思うの」と言いました。少女は説明しました。「それは家で私が不公平な取扱いを受けるからです。兄は私が太っていると笑って笑いますし、母は私のことを小さな象さんだと言います。兄はやせているので、父や母から何でもほしい物をもらいます。とても甘やかされていて、憎らしいのです。私は家のお手伝いをしなくてはならないのに兄はしなくてもいいのです。姉は何かしてもらいたい時だけいい顔をして、あとは私などいような態度をとるのです。」

教師と生徒はこの問題について語り合いました。そして次のことがわかってきました。この生徒は太っていることをいやがっていましたが、その対策を何もしようとしていませんでした。兄さんにかかわれるのは辛いことでしたが、兄さんも「成長の痛み」を感じていたのでした。そしてしばらくすれば二人の関係は違ったものとなるはずでした。そのほか少女は数多くの方法で示された母親の愛を認めることが出来ました。

これは中学生が体験する激しい感情の典型的なものです。この少女は家族一同の愛を感じ、自分が認められていることを意識して安心感を得たかったのです。無意識的に彼女は兄さんのやせた姿をねたんでいましたし、自分自身をきらう気持が、母親が兄さんを片寄り愛しているという妄想に輪をかけたのです。

青年期の初期はいろいろな感情の強い時期ですが、そういう感情はバランスがとれず、調整が出来ないのです。だから十代の青少年は気むずかしく、気が変わりやすいのです。何もかもが楽しく素晴らしいかと思うと、何の予告もなしに一切のものがその逆になってしまうのです。この年令の少年少女は感情を制

止したり、慎んだりすることが出来ないのです。友だちや自分の所属するグループには激しい忠誠心を示しますが、そういう決定が親によって認められないと自己憐憫の気分沈んでしまいます。又、しばしば自分は誤解されているとか、不公平な取扱いを受けていると感じます。中学科の生徒はおとなに認められること以上に、自分と同じ年令、同じ事に興味を持っていて同僚に認められるの方が大切だと思っ  
ています。グループによって受け入れられる時には、所属感と共有感を感じて感激するのです。仲間はずれにされ、お前などいなくても良いのだという印象を受けると、世捨て人になったように感じてしまいま  
す。ほかの少女たちの洋服、髪形、そのすること、行く所などが一つの型になって皆それに従おうとす  
るようになります。男の子たちでさえ、友だちとは違う洋服を着せられるのはいがたい苦痛だと感じる  
のです。

十代の人々は他人に対しては非常に思いやりが無く、無情です。ほかの人に放っておかれて  
いる子供にとって、日曜学校の教室は世界一寂しい所になることさえあります。時には、他の生徒のよう  
に身なりの良いくない子供や、貧しい家庭の子供が静かにすわって、ほかの子供たちに受け入れられるの  
をひたすら待ちわびているということもあるのです。絶えず自分は拒否されているのだと感じる十代  
の少年少女は日曜学校を去るようになります。そして大抵彼らはキリストと教会から永遠に離れて行  
ってしまうのです。しかし教師が注意深く観察し、少し頭を使って事を運ぶなら、この問題を解決  
することが出来ます。グループのリーダーをあなたの仲間に入ることが出来るなら、ほかの生徒も  
クラスのメンバーや訪問客と仲良くし、歓迎をするようにさせることが出来ます。そこに、他人の  
気持を思う思いやりと、他の人々を

喜ばせることによって得られる幸福感というものを教え込む絶好の機会があるようです。

### 中学科生徒はどのように考えますか？

中学科の生徒にはただ一つ共通点があります。それは一人一人が皆違うということです。遺伝とか環境  
とかが、彼らの生活劇の中で指導的な役を果たしています。テニソンは「私は今までに私が会った人全部  
の一部分である」と言いました。中学科の生徒は彼らの生活には入り込んだもの——家庭生活、学校生活  
教会生活など——全部の所産です。ここで彼らは自分たちの考えを広げていくのです。知的に成長し、論  
理的に考える力が発達していきます。

あなたの教えている生徒の行っている中学校を訪問して御覧なさい。その生徒は落ち着いて学級会を運  
営しているかも知れません。会議法をちゃんと理解して守っています。会議法によって彼らの発言能力や  
計画の立て方が上達します。話し方の授業によって、準備した話でも、即席の話でも出来るようになります  
。提題された作文を書かされることにより、図書館の資料を用いることを学び、創作文を書かされるこ  
とにより、この年令では非常に活発である想像力を用いる機会が与えられます。科学の勉強によって興味  
が刺激されて、考えさせられるような質問と答えのやりとりが行なわれます。一度興味を覚え、感じ続け  
たならば中学科の生徒は自分の意志をもってそれをし続けるようになります。記憶力は相当に高い水準に  
達します。ですから目的とか動機とかが、勉強しようという努力に拍車をかけることになるのです。

思考力がこの年令では急速に発達します。今まではおとなの考えや決定をほとんど疑問を持たずに受け入れてきました。しかし今では満足のいく理由と証拠が要求されるのです。前には問題なく信じられたことも、ばらばらにして一つ一つ調べてみなければ気がすみません。今や中学生の生徒は自分自身で考え始めたのです。

ある賢い母親は中学生のむすこと娘に自分で洋服を買わせてみました。布地がちょっと適当で無かったとか、スタイルが適切なもので無いという欠陥はありましたが、二人が誇りと自信を持って得た責任感というものはそれには比べられないほど重要なものでした。賢く判断する能力というものは練習と経験から生まれてくるものなのです。

代用の法則というものがありますが、これは非常に重要な法則であることを忘れないで下さい。家庭でも日曜学校でも、中学生の希望に対して「いけません」と言わなければならぬ時、その代わりに何かを与えるように極力努力しなければなりません。社会的興味がこの時期には広がって行き、しばしば学校の影響によって教会の標準を受け入れるのがむずかしく感じるようになります。「いけません」ということがしばしば聞かされ、それに代わるものが与えられなければ、反抗が起こるかも知れません。

健全な親睦の時を持つことは、教師や科の役員にとっては時間と努力のいることですが、それだけの価値があることです。

この時期には良い習慣も、悪い習慣も共に形作られていきます。行儀というものは大体、社会的習慣です。社交的礼儀が普通に行なわれている家庭の子供は、人中でも落ち着いています。しかしある家庭では

細かな行儀作法などは重要だとは思わないので、そのような家庭の中学生はこの種の訓練に欠けています。いろいろな新しい考えや目的に目を開かせながら、中学科教師は生徒に行儀の良さを身につけるように仕向けていかなければなりません。きれいな話し方、きれいな思い、きれいな生活、真理、美、善を敬う心などは、毎日の生活の中で持つべき立派な習慣だと思います。

## 質 問

一、もしこのグループを「過渡期」という一語で表わすとするなら、顕著な特徴としてどんなことが考えられますか？

二、中学科の生徒は自分の同僚に認められたがるとはどういう意味のことですか？これはその行動にどのような影響を与えますか？

三、どんな方法で中学科の生徒は自意識を示しますか？

四、なぜ中学科生徒がこの科を出る前に、キリストに対する決心をすることがそんなに大切なのですか？

## 第四章 文化的背景

「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」（ルカ二・五二）

新しい中学科主任は一つの問題があることを意識しました。それは日曜学校の時間は、生徒の必要を満たすためには遙かに短過ぎるということです。十分に教えるためには教師は生徒の生活のあらゆる面には入り込まなければなりません。そして毎週学課を興味深く、しかも生徒の助けとなるような方法で提示しなくてはならないのです。教師は今でも生徒を心から愛して、犠牲的に時間をさいているかも知れませんが、しかしそれだけでは充分ではありません。彼らの必要を親しく理解し、それを満たす方法を見いださなければなりません。

では教師は教室外でどのように教えることが出来るのでしょうか？人生の生き方というものは教室で学んで、それから日常生活で実行してみるというものではありません。それは実際の生活の種々の関係の中で学びとるものです。生徒は一人一人、クリスチャン生活に対する自分自身の考えを持っています。そしてそれは今までは一人一人の背景や環境によって決定されてきました。しかし今度は一人一人の中にキリ

スト教の原則が打ち込まれ、それが彼らを支配する勢力になるようにしなければなりません。そして名誉、正直、無欲、親切というような品性を価値あるものと見なし、求めるようにさせなければなりません。しかもそれらを生徒の日常生活に適應させていくことも、教師の働きの一部なのです。生徒一人一人の必要も皆違っています。とすると、教師が一人一人の生徒の背景を良く知らなければ、これは絶対に出来ないことなのです。更に祈りを伴った、注意深い計画立案が必要です。では授業ではどのようなようにして昭夫、健一、幸子、道子などという生徒のそれぞれ違った必要を満たすことが出来るのでしょうか？それは聖霊が真理を彼らの中に打ち込んでくれるのです。そしてその真理が一人一人の生徒を支配し、導くようになるのです。

教師は教室でどの位の時間を与えられているのでしょうか？ある人が注意深く計算をしました。一週間には一六八時間あります。もし日曜学校で一時間過ごすなら、それはその生徒の持ち時間の一六八分の一ということになります。睡眠時間として六八時間取りますと、一六八時間引く六八時間で、活動時間は一〇〇時間になります。それは、日曜学校は一週一六八時間の中の百分の一しか時間を持っていないということになります。しかし日曜学校の教師は学課の授業には普通、平均三十分しか使えません。ですから日曜学校の教師は毎週、生徒の持ち時間の二百分の一しか、教えるために使えないのです。更に生徒は大抵、一年のうち何回かは日曜学校を休むということも覚えておかなければなりません。

物事を学ばせるためには、注意を引きつけ、保持しなくてはなりません。生徒たちはこの短い、貴重な時間に、聖書研究とは無関係な自分個人の興味や、活動や、体験で頭も心も一杯にして集まってくるので

す。面白いこと、仕事、家庭の感化、学校での種々の交際、問題というものが、彼らの一週間です。ここで教師は神の言葉に自分の考えを集中し、それを生きた真理として打ち込まなければなりません。クリスチャンでない家庭の子供たちが、聖書における神の啓示、キリストによる救いの計画、聖書の教理、罪から守る力など、聖書の知識を得ることができるのは、日曜学校の時間だけなのだと意識する時に、それは実に厳粛な時間だと思われまます。

順子と悦郎は母親が死んだので祖母に育てられるために越してきました。二人共中学生です。悦郎は引込み思案で、学校では乱暴な生徒たちと交際を始めました。順子は絶えず、前の家が素晴らしかったこととか、父親が重要な仕事をしていたと言いつづけていました。日曜学校の教師は、悦郎の神経質な態度に気が付きました。それからある日のこと、真実を知りました。二人の父親はアルコール中毒で、犯罪を犯して刑務所で服役中なのです。二人は愛も安心感も知らないのです。悦郎は自分の今まで知らなかったものを持っている少年たちとの交わりから身を引いてしまいました。順子は、本当だったら良いのにと思う作り話をしては、自分の孤独な心を隠していたのです。

日曜学校の教師は静かに、二人の信頼と友情を獲得するために行動を開始しました。二人の必要なものがわかっていきますから、教師はそれに合った方法を用いて、神の大きないつくしみ、愛、優しさについて話してあげました。二人はキリストを救い主として受け入れました。悦郎は中学科を卒業する頃には、教会の人々と心おきなく交わるようになっていました。順子は作り話で友だちに良い印象を与えようとするとはなくなり、かえってそのままの姿で受け入れられ、好かれるようになりました。あの教師は授業時

間の限度を越えて、この二人の若い人々が人生の調整をし、幸福を見出すのを助けてあげたのです。

次に示すのは、ある中学科教師の記録で、受持生徒一人一人の家庭背景の類型と、その生徒の顕著な必要を示した表です。これは学期ごとに、各生徒の霊的向上を調べるために作ってあります。これは教師以外だれにも見せないものです。ヒントとしてここにあげておきましょう。

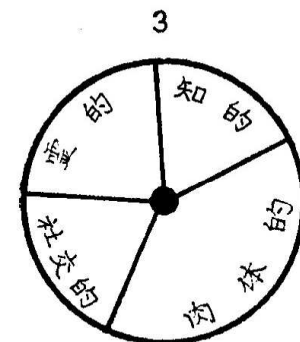
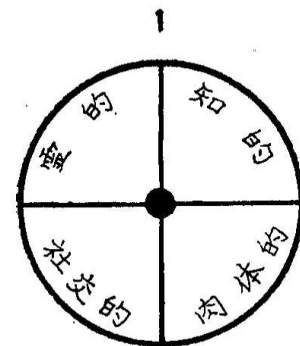
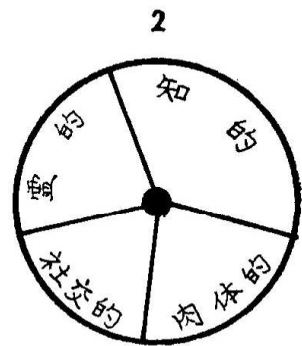
名前	家庭類型	問題	解決法
るり子	A	利己主義	他人への愛
敦子	AA	甘やかされている	救い
律子	A	仲間はずれ	クリスチャンの友
悦子	A	きらわれもの	キリストの助けを得る
恵美子	A	大声で騒がしい	行儀
芳子(身障者)	BA	役に立たない	欠席生徒への連絡

A | 標準

B A | 標準以下

A A | 標準以上

「年とった頭を若い肩には乗せられない」という言葉があります。エネルギーに溢れ、驚くほどの探究心を持ち、未熟な考えを持っている十代の人々は、やがて、しっかりした、動かされることのない、しか



生徒の生長分野

も積極的に奉仕をするクリスチャンが作られる原料なのです。彼らはまだ完成品でなく、製造過程にあるのです。バランスのとれた人物は人生のあらゆる分野で円熟しています。教育とは技巧と知識の育成であると定義づけられます。ですから日曜学校の教えが発達、成育のあらゆる分野にはいり込むことが大切だと思われれます。

1の円を見て下さい。中心の点は日曜学校の教師を示します。各部分は教育による発達の分野を示します。日曜学校の教室からは、どの方面にも健全で、バランスのとれた生長をもたらす、明確な真理が語り伝えられていかなければ

なりません。

知的教育

中学生科の生徒は質問をします。彼らには質問する権利があるのです。しかし彼らが納得するように答えなければ、私たちは彼らを助けたことになりません。論理的に物事を考えるようになると、疑問が生じます。彼らはこのようなことを心の中で考えているのです。

正直なことは得をするのだろうか？ ごまかすことは罪だろうか？

神様ってだれだろうか？ 本当に居るのだろうか？ どうしたら知ることが出来るのだろうか？

人生とは何だろうか？ どうしたら幸福になれるのだろうか？

おとなになったら自分は何になるか？

愛とは何だ？ 性とは全部いけないことなのか？ ほかの生徒がそうでないのに自分だけ道徳的にしないではないものだろうか？

聖書が真理だということがどうしてわかるのだろうか？

聖書について、学校の先生と日曜学校の先生が言うことが違う時はどっちを信じたらいいのだろうか？ もし教会で教えるような生活をしたら、友だちはきまじめなやつだと言わないだろうか？

生徒たちの考えの先回りをしていることは努力を要することですが、それだけの報いがあることも確かです。近代科学に興味を持っていく生徒には、いつもそのような良い記事を注意して見ていて、それを話してあげると良いのです。そして真の科学と聖書は一致するということをはっきりとわかってあげるので、中学校を訪問してどんな事が教えられているか理解するようにして下さい。日曜学校の教師が学校の成績や、その他の業績に対して心からの関心を示すことが、その生徒を日曜学校に更に引きつけることにもなります。生徒たちに良い本を紹介し、新しい興味と楽しみの世界を開いてあげて下さい。ある矯正施設の経歴調書によると、そこに送られた少年の中で、良い本を今までに一冊でも読んだことのある少年は十人に一人しか居ませんでした。人格とは養い育てられるものです。悪い食料はその人格を毒します。ある人が言いました。「私の頭に高潔な刺激を与え、清い感情を生み出し、あるいは私の前に真の理想を示してくれるものは、私にとって良い書物である。」

あなたのクラスには評判の「本虫」が居るかも知れません。その生徒は完全に我を忘れて本に浸り切っている、他の分野における発達がなおざりにされているのです。クラスには今から大学に行くことや、弁護士や医者になることを考えている頭の良い生徒も居ます。その隣には、こつこつ勉強する人がいて、一生懸命に勉強しているでしょう。又どのクラスにも、のん気で、言われたものしか読まない怠け者が居るものです。それぞれ皆、別々の好ききらいがある、違ったタイプの人々です。しかし一人一人が肉体的、社交的、靈的分野とバランスのとれた知性、すなわち健康で、十分に発達した知性を持たなければならぬのです。

## 肉体的教育

テモテへの第一の手紙五・二二には「自分をきよく守りなさい」という、極めて簡単なクリスチャンの生活原則が記されています。世界中どこを見ても、青年たちの肉体を滅ぼす悪が、魅力的な姿で宣伝されています。十代の青少年に対するこれらの攻撃を日曜学校の教師はどのようにしたら防ぐことが出来るのでしょうか？ それには神のみ言葉と神の標準を高く掲げなければなりません。救われた中学生の体は皆、聖霊の宮です。清潔な生活に対しては満足すべき報いがあることを彼らの前にはっきり示すようにして下さい。

健全な、戸外での活動は特に男生徒に喜ばれます。そのような運動は健康に良く、有益です。しかし3の円を見て下さい。何でもバランスがくずれ、調整がきかなくなると問題になります。ほかの重要な分野をおろそかにすると、片寄った発達がなされてしまいます。肉体の健康には、光、熱、食物、運動、保護、世話などが必要です。生徒にはキリストの身だけにまで達するように成長するように訴えることが大切です。

次の質問を生徒一人一人に考えさせてみて下さい。

- 一、自分は肉体的に最高に強健で丈夫な状態にいるだろうか？
- 二、自分は自分の体を聖霊の宮として保っているだろうか？



三、自分は新しく手を使ってする技術を身につけているだろうか？そして体力を増加させているだろうか？

四、自分は活発で丈夫になるために必要な食物と休息を体に与えているだろうか？

五、自分は喫煙とかアルコール飲料を飲むとかの有害な習慣から離れているだろうか？

六、自分は毎日、自分がキリストのものである、自分はキリストが御自分の血で買ったものだからキリストのものであるということを感じて生活をしているだろうか？

〔訳1〕この年令は喫煙、飲酒に興味を持ち、まねを始める時期である。

## 社交的教育

神は私たちを友人や、交わりを必要とする社交的存在として造られました。中学科の生徒は遊びや親睦の交わりが好きです。ここにも教師が授業時間外にしないでほならないことがあるのです。上品さの欠けた家庭の生徒は良い行儀作法を習わなくてはなりません。親睦会などの時に一度、社交上の礼儀について話し合うようにして下さい。小さなテーブルを準備して、ナイフやフォーク、スプーンなどどのように使うのかを正しく示してあげるので。生徒と一緒に年上の人や、十代の人を紹介する仕方を練習して下さい。パーティの時に生徒を接待役として使うなら、生徒全員がお客さんに礼儀正しく、親しい態度で挨拶をし、歓迎する方法を身につけることが出来るでしょう。

ある成功した中学科の教師は自分の受持の女生徒を一年のうち何回か、土曜日の午後に自分の家に招い

て、裁縫やお菓子作りを教えていました。この人の主人は中学科男子のクラスを教えていましたが、生徒たちをしばしば家に招いてアイスクリームやハンバーグの御馳走をしてあげました。二人のクラスは両方共、教師と生徒との間に強い結びつきが出来ていました。

ある盛んな中学科では一年に一度父兄を招待しました。生徒が司会する短いプログラムがありました。それから生徒が茶菓を出して、接待役を務めます。中でも特別な呼び物は一人一人の生徒の両親を全員に紹介することです。これも生徒がするのです。

私たちの救い主は非常に柔和で親切でした。み言葉にも、うやうやしく謙虚であるようにとあります。(ペテ1三・八) 少年少女にこのような作法を教えることも、主を喜ばせるに違いありません。

4の円を見て下さい。社交的蝶になって、あちらの社交場からこちらのパーティへと飛び歩いている人ほど空しいものではありません。ここに間違った価値判断が下されているのです。生徒たちは学校でもよく、優等生会や研究グループの代わりに社交的クラブを作ります。そして自分のグループでの社交的立場を最も重要なものと考えようになります。物質的な物が加わると誘惑が出てきます。熱心で感受性の強い少年少女の心を私たちは常に授業やカウンセリングや個人的指導などで牽制することが必要です。楽しみのみを求めて知的発達忘れられると、肉体的面にも悪影響が及び、更にそれ以上に霊的発達がおろそかにされたり、失われたりすることになってしまいます。

この成長は徐々に行なわれます。赤ちゃんは歩く前にはうことを覚えなければなりません。預言者イザヤが言ったように、それは教訓に教訓、規則に規則ということ。生徒の中に見られる、取り除いても書きたいと思う、良くない品性を書き出して下さい。それから反対側に求めるべきクリスチャン品性を書き出して御覧なさい。そうすれば目標がはっきりして、学課の真理をどのように毎日の生活に適應したら良いのがわかってくるでしょう。そして生徒の靈的發達も正常なものとなり、継続して行なわれるようになるでしょう。ここに示すのはほんの一例です。あなた自身の生徒のことを思い浮かべながら作るあなたのリストは当然これとは違ったものになるでしょう。

不真実

真実

ごまかし

正直

憎しみ

愛

許さないこと

許し

不従順

従順

爆発するかんしゃく

怒りの制御

きたない言葉

きれいな言葉

落ち着きがない

落ち着きがある

思いやりがない

思いやりがある

もう一度1の円を見て下さい。そしてもう一度、日曜学校中学科の教師はどのようにして授業時間外に生徒を助けることが出来るだろうかという質問を考えてみましょう。私たちはどの生徒も皆、家庭や学校、社会、教会などの影響を受けていることを知りました。ですから日曜学校の教師は、祈りと授業、個人的な関心とカウンセリングによってクリスチャンの原則を彼らの中に打ち込むべきなのです。そうすれば彼らは、この人格の形成期を通じてキリストと教会に結びつけられていくことでしょう。

## 質 問

一、あなたは教える場合に助けとなるような本を組織的に読んでいますか？  
二、人間の生き方について考える場合、生徒の生活に働きかける四つの主な影響力とはどんなものですか？

三、一人一人の生徒の背景、興味、特性などを記録しておくことは何かの助けになりますか？ なるとしたら何の助けになりますか？

四、土曜の夜の夜ふかしは日曜の朝の授業での教師の能率に影響がありますか？ あるとしたらどのようにありますか？

五、中学生徒の成長の四つの分野を示し、その一つが他の分野を損うほどの發達をした場合の生徒に対する影響をあげて下さい。

## 第五章 学課の準備

「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めばみなさい。」(テモテ2・一五)

大学で教育学専攻の人々は、最終学年に教生にならなければなりません。ということは、この教師の卵たちは各学校に配属されて、その教師たちの監督のもとに授業をするのです。こうすれば教生は教室で学んだ理論をいかに用いたら良いかを実習によって身につけることが出来ます。そして一番大切なことは授業の計画だということを学ぶのです。しかし、報酬なしに自分の時間と努力をささげている日曜学校の教師は大抵、その仕事に対する訓練を受けていないので、学課の準備についても、教授法についても、わけがわからなかったり、自信がなかったりといった状態です。

### 授業の計画

授業の計画は必要ですか？ 家を建てる時に青写真がいりませんか？ 洋服を作ろうとする時にパター

ンはいりませんか？ 講演をする人はよく考えて準備をし、明白な目標と目的をもって語らなければ、聴衆に感動を与えることはできません。中学科に生きた真理を教える場合もそれと同じです。研究方法を知り、あらかじめ定めた目標を持ち、授業の方法を選び、また実際に授業をするということは、どれも皆必要欠くべからざることです。そこで授業計画をたてることの利点を幾つか考えてみます。

一、学課の目標を強調することができます。各学課にはその土台となっている聖句が示されていますが、その聖句のどこかにその学課の目標が記されているはずで、ですから聖句を注意深く読み、「この聖句の中で自分のクラスの生徒の助けとなるものは何だろうか」と考えてみる必要があります。

たとえば、マタイ四・一八―二二の学課があります。これはイエスが二組の兄弟を御自分の弟子となるように召された時の有名な話です。ペテロは聖書人物の中でも特に良く知られています。この記事によると、イエスはある日、彼らを御覧になったのです。しかしその時、何を御覧になったのでしょうか？ 単なる漁師たちですか？ いいえ、主は一人一人の心の中に、主の真の働き人となる可能性を御覧になったのです。すぐに興奮して、激怒し、衝動的なペテロの中に、主は用いることのできる良い点が隠されているのを御覧になりました。では教師の目標とするところは何でしょう？ それは一人一人の中学生が心の中に、イエスによってとらえられ、立派な良いものに作り変えていただきたいという願いを持つようにさせることです。

二、教師が割り当てられた時間内に、その学課の主な点を十分に教えることができますようになります。

学課の中に含まれているそれぞれの思想を注意深く評価するならば、教師はそれぞれの要点にどの位の時間を当てたら良いかがわかってきます。のんびりと学課を始めると大抵終わりの方では大急ぎで、満足な結論も出さないうで終わるといふことになるようです。

三、教師が良い例話を見つけることができます。これは学課の思想を説明する物語だけでなく、絵や興味深い、背景にある事実なども含めて考えられます。

四、教師はしつけない問題を取り扱うことができます。授業の計画をすることにより、教師は生徒の考えを引き出すような質問や、興味を引きつけるような言葉を準備して使うことができます。生徒が学課に興味を持って持つほど、しつけない問題はなくなっていきます。

五、教師は自信をもつことができます。教師はいつも、学課については時間内に使い切れないほどのことを知っていません。十分に準備をした人は、平静で、権威を持って話すことができます。しかし教師が十分な準備をしていない場合、生徒はすぐにそれを感知してしまふのです。

六、十分に考えぬかれた結論が出てきます。授業の終わりのベルが鳴る前に授業を終えたと生徒たちは混乱し、ぼらぼらになってしまいます。ですから時間を充分に使って、生徒の日常生活にあてはめることのできる学課の真理を生徒の頭の中にしつかりと植えつけるようにして下さい。祈り深く授業の準備をすれば、神のみ言葉は若い人々の心にしっかりと宿るといふ確信を教師は持つことができます。しかしいつも聖霊の導きに敏感に従うようにして下さい。

良い授業をするためには、良い教材と良い教授法が共に必要です。教師が有益な書物を読むことにより、その知識を広めれば広めるほど、授業の効力が増大していくものです。しかし、ある教師は「ただ授業をするだけでほかに仕事がないければ、もっと勉強もできるのだけれど、私にはほかに沢山仕事があつて忙しくてたまらないのです」と言うでしょう。でもここに書いてあることは皆、忙しい教師たちのことなのです。勉強の時間を確保にとるといふことは絶対にしなければならぬことです。それに一日のうちには利用できる時間があちこちに驚くほど沢山あるものです。たとえば学課を生徒の興味と結びつけるような、最新のニュースに注意していることなどはきまった時間がなくてもできることです。あるいは、仕事を始める前に授業の助けとなるようなものを読み、なれた日常の仕事をしている間にでもその事を考え続けるのです。言葉を変えて言うなら、あいている時間はどしどし読書と授業の準備に使う習慣を作るといふことです。

### 教師の補助教材

教師にはどんな補助教材があるでしょうか？

聖書 どの日曜学校でも聖書はいつも唯一の教科書として尊ばれておりますが、それは当然そうでなければならぬことです。それは六十六巻からなる神の文庫です。そして神、創造、天国、地獄、人間の墮

落、イエス・キリストによる贖罪の計画などを私たちに教えてくれます。聖書は生きている神によって私たちに語られた神の言葉なのです。

この聖書を理解するためには、聖書を研究するための、はっきりした計画や方法をもつことが必要です。

次にあげることを行なって下さい。

- 一、聖句を他の聖句と比べること。
- 二、聖書をゆっくり研究すること。聖書の詰め込み式の勉強はできません。
- 三、注意深く聖書を読むこと。できるなら原語を掘り下げてみることに。自分でできなければ何らかの助けを得ること。
- 四、忍耐強く聖書を読むこと。聖霊があなたの心と頭に、真理を照らし出して下さるように願って求めること。
- 五、敬虔に読むこと。気を散らすようなことを捨て去ること。
- 六、祈りをもって読むこと。理解することができるよう神に祈り求めること。
- 七、主題、ひな型、人物、主要章、中心となる言葉、教理などに従って聖書を学ぶこと。

**教案** どんな教案でも聖書にとって代わることはできません。教案というものは授業の計画の助けと

し、手引きとして書かれています。教案の著者は、ある教師が直面している問題を知りません。またどんな生徒がいて、どんな困難を覚えているかも知りません。ですから教案の中では、中心的な真理と目標を示唆しているだけなのです。ですから教案は、自分で聖書から学課を学び、そこから得た思想や考えを書きとめたあとで、初めて読むべきものです。そして教案の中に示されていることを用いて、あなたが見いだした思想を拡大するようにして下さい。自分で努力して準備する代わりに教案を使うというのであってはいけません。教案には大抵、授業時間に使い切れないほどの材料がのっています。ですから自分のクラスに一番助けになると思われるものを、その中から選んで用いるようにして下さい。

**聖書辞典** 聖書辞典は聖書の中の言葉の意味を説明するだけでなく、聖書のお話、伝記、地理、歴史、文学などを示してくれます。

**聖書地図** 聖書に出てくる場所、重要な事件の起こった場所、旧約や新約の人物と関係のある場所などを教師は自分ではっきり知らなければ生徒にはっきり教えることができません。パレスチナの地図を書くのは非常に簡単ですから、聖書に出てくる場所をすぐに頭の中でその場所を言うことができるように、練習して下さい。地図を書くのはたとえどんなにへたでも、授業中に書いて使うなら、効力を発揮することでしょう。

では、ここで、あなたの知識をテストしてみして下さい。次の場所がどこにあるか地図の上で示して下さい

い。カルメル山、死海、ガリラヤ湖、ヨルダン川、ヨッパ、ツロ、カペナウム、ベツレヘム、ヘブロン、エルサレム、エリコ、ナザレ、クプロ、コリント、アンテオケ、カイザリヤ、アテネ、ビリビ、ローマ。

**パレスチナの背景** 聖書の土地、パレスチナの人々や場所を最も良く知るためには、その土地の風俗や習慣を理解することが一番良いことです。この地方の人々の風習や考え方を知らないと、聖書の意味を本当に良く理解することはできません。

たとえば、マルコの福音書にある記事で、キリストが二人の弟子に過越の祭を祝う場所を捜しに行かせたという記事があります。その時キリストは、二人が水がめをかついだ男の人に会うから、その人の家までついて行きなさいと言いました。これは何ともはっきりしない話だと思いかも知れませんが、水がめを運ぶのは女の人だけだったとわかれば、その事情がもっと良くわかってきます。当時の男の人は、水を売るために皮袋に入れて運びましたが、家で使う水がめに入れて運ぶことはなかったのです。パレスチナの風俗習慣についての本はとて面白い本ですし、教師にとっては貴重な知識の宝庫となるものです。

### 聖書註解書、日曜学校関係の雑誌、キリスト教関係の良い定期刊行物

切り抜きのファイル 教案が手にはいったらすぐに、その学期の学課を全部注意深く調べて下さい。そしてノートに各課の主題、聖句、目標などを書きます。それから例話を捜すのです。ファイルには大きな

マニラ封筒を使います。それぞれの封筒には学課の題を書いておき、その中に例話、絵、有益な提案、思いつきなどを適当な見出しを書いて、入れるのです。キリストはその教えを説明するのに、日常生活の中のあるふれた事を用いました。たとえば、漁師と網、種をまく人と種、祝福を求めて来た子供たちなどです。教師たちも周囲を見回して、生徒にピンとくるような小さな出来事、雑誌の記事、新聞記事などを見逃がさずに切り取り、集めて、授業を豊かなものとして下さい。

### 授業の準備の段階

授業の準備はどのようにしたらよいのでしょうか？それについては次に記しますが、その大部分は既に教師たちが用いているものだと思います。しかし研究の様式は無意識的に向上させることができるものですから、しばしば反省し、調べてみる必要があります。そして弱点が見つければ改善し、あまり役に立たないものは、より良いものと変えるようにするべきです。授業の準備にもやはり変化をつけ、教師自身の興味を起すようにしないと、それはつまらない、ただの繰り返し事になってしまうことを覚えて下さい。

一、早く始めること どの方法をとるにしても、時間的要素は一番重要なものです。次の週の学課を読み直すのに一番良い時は日曜日の午後です。その朝の授業時間のことがまだ記憶に新しいからです。そして生徒たちの態度や必要としている問題などが、はっきりと思い出せます。一週間もたつと、忙しい日

常生活のためにこの前の日曜日のことなどは大抵すっかり忘れてしまうものです。詩篇の中に、面白い、小さな言葉があります。それは「セラ」という言葉で、「この事を考えなさい」という意味なのです。学課についても、いろいろな考えが湧いて来、頭の中を去来するでしょう。しかし、その事についてじっくり考えないと、それはすぐに消えてしまいます。頭や心を、祈りと学びで浸しきるには時間がかかります。最後の瞬間になってからの準備では、表面的な知識しか得られませんから、その場合教師は明らかに不利な立場に置かれます。一週間の学びによって、学課の概略や計画をよく飲みこんでいけば、授業もよどみなく進みますし、授業中に聖霊が与えて下さる新しい思想を受け入れるだけの余裕もできてくるのです。

二、聖書を用いること 学課の第一印象は、教科書である神のみ言葉から得るべきです。教師は前の学課とのつながりを知るために、前の課と今度の課の間の聖句も読まなければなりません。読みながらも、頭に湧いてくるいろいろな考えを書きとめておいて下さい。この単純なことが、はっきりと建設的に考えていくのに役立ちます。そして後にそれを再評価して、最も良く必要に応じることのできるものを用いるようにするのです。学課の準備の際に役立つ補助教材はいろいろありますが、賢い教師は、生徒の前に立つて、ただ聖書から教えるものです。その場合、概略を書いて目立たないように聖書にはさんでおけば、話を忘れた時に思い出す助けになります。しかも生徒たちは、神のみ言葉が権威の源であると認めるようになるのです。

牧師の子供で十四歳になる中学生の少年が、ある日曜日の午後、「お父さん、すぐ上田さんを僕たちのクラスの先生に任命してよ。上田さんは今までの先生の中で一番いい先生だよ」と言いました。そのクラスの教師が長続きしないので困っていた牧師は「なぜ、そんなことを言うのかね」と聞き返しました。少年はすぐにこう答えました。「だってあの人は聖書を知っているもの。教案も持っていないんだよ。聖書が言おうとしていることを全部知っているのだと思うよ。」

三、教案や他の補助教材を用いること 地図は広げて、学課に出てくる場所を必ず見ておくこと。人の名前や場所の名前は間違ひなく言えるようにしておくこと。当時の人々はどのような生活をしていたか、どんな家に住んでいたか、どんな服を着ていたか、国はどんな状態だったか、だれが治めていたか、などということも調べておくべきです。教案から教師は、学課の概略と中心的真理の示唆を得ることができ、また、教師が利用できるように学課の聖句の説明や、霊的応用も教案には出ています。しかしこれらは一つの提案として示されているものだから、教師はほかの同じように有益な材料も用いて、自分の思想を発展させ、目標を選ぶようにするべきです。

四、学課の目標を選ぶこと 学課の目標は次の方法で決めることができます。まず、学課の聖句があります。それから、中学科の生徒たちがいます。この両方を考えて目標はきめられるのです。学課の聖句からは真理が引き出されなくてはなりません。そしてその真理は中学生の直面する問題に適応し、解決を与えるように強調されなければなりません。その内容は品性であり、信仰や勇気の模範であり、ある良

い点を強調した人物伝であり、また人生の諸問題とその解決といったことになるかも知れません。

五、毎日学ぶこと 毎日十五分ずつ学課のために時間をさくことは、土曜日にだけ二時間使うよりも、はるかに良いことです。毎日学んでいけば、教えるべき思想が、教師の頭と心に浸透していく時間があるのです。そして学課が教師のものになりきる時、この真理は信じられ、実行されているのだという確信をもって語る事ができるようになるのです。教師は土曜日の夜は遅くものを食べたりせず、早く床につくようにするべきです。日曜日の朝、肉体的にも最善の状態になるように、自分でもできるだけ努力を下さい。土曜日の夜は、準備した学課を軽く復習して休んだら良いでしょう。そうすれば授業の際に、一つ一つの要点が驚くほど楽に出てくることでしょう。

六、興味深い話のいとぐちを見つけること 授業の最初の三秒が、教師がクラスを掌握するかどうかを決定しますので、学課の話し始めが非常に大切です。中学生の注意を引き、保ち続けるためには、生徒に強く訴える、短い緒論を見つけることです。たとえば教師が、人生における正しい選択について強調しようとして計画しています。その場合の緒論として語るのに丁度よいような事件があるテレビ番組〔訳1〕でありました。それは次のようなことです。

ある有名な司会者が全国ネットワークの番組で、一人の年とった看護婦さんとインタビューをしています。司会者は「あなたの一番大きな心の望みは何ですか」と質問しました。それを見ていた人はだれも

が、この看護婦さんがヨーロッパ旅行だとか、家を建てることだとか、老後の保障などと自分で楽しめるものを言うものと思っていました。ところが驚いたことにこの看護婦さんは「私は救い主にお会いして『お前は地上にいる時には私のために良く働いてくれたね』とおほめの言葉をいただきましたか」とおほめをいいたかと思いきやと答えたのです。

〔訳1〕これはアメリカのテレビ番組のことである。

七、例話を選ぶこと 例話は絵でも、図表でも、あるいは逸話でも、たとえばどんな例話でも教師の思想に光を与え、説明するものでなければなりません。例話が生徒の心を学課の教えから引き離し、例話自身の話や、美しさに引きつけるようではいけません。また例話の数は少なくするべきです。幾つかの例をぼんやりと覚えておけるより、一つの例をはっきり覚えておける方が有益です。生徒たちの身近にある簡単な例話が一番良いのです。

八、質問をきめること 生徒が質問をしてくれるのは教師にとって嬉しいことです。それは生徒が興味をもって証拠だからです。しかしあらかじめ準備した質問を教師が用いて、クラスの話し合いのいとぐちにすることもできます。その場合も、ただ「はい」とか「いいえ」と答えられるような質問はしないのです。関心を呼び起こし、考えを引き出すような質問をして下さい。質問に答える場合にも中心思想から脱線するようなことがないように注意して下さい。



九、書き出すこと　まず学課の骨子とも言うべき概略を書き、更に自分の勉強ノートから必要なものを書き加えるようにします。初めは細部に至るまで書きますが、あとでクラスで使う形に要約します。学課の要点を書き出すことはそれなりに価値があります。というのは、要点がはっきりするし、楽に記憶することが出来るからです。

一〇、練習をすること　どこか一人になれる所に行つて、大きな声で授業をする練習をして下さい。そうすれば強調するべきところはどこなのかがわかってきますし、むずかしい名前なども正しく言えるようになります。

一一、熱心に折ること　教師は、授業は全く教師の努力にのみかかっているかのように準備をするべきです。それからみ言葉をあがめることができるように心から神により頼み、聖霊の力と導きを求めるようにするべきです。「自分で教えることは自分でも行なえ」という言葉の陰には、二重の意味があるようです。第一は、授業のために役立つ準備をしなさいということです。第二は、キリストのような生活をする事こそ、言葉にまさる授業であるということです。

#### 質　問

一、自分の研究方法を分析し、この章に出てきたものと比較しなさい。自分の方法で、自分は知識の面でも成長していると感じられますか？　教える技術も向上していますか？　生徒の心に効果的にふれていきますか？

二、学課の目標とは何のことですか？　それはどのようにしてきめますか？

三、既に使っている補助教材をあげてみて下さい。この章に出ているけれども、自分ではまだ使っていないものをあげてみて下さい。もしそれを加えたなら、授業の準備の上でどのような利点があるか、記して下さい。

四、授業の準備の段階を書き出して下さい。書き出したあと、各項目についての自分の点を採点してみなさい。A(すぐれている)、B(良い)、C(普通)で記入しなさい。

## 第六章 授 業

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」（詩篇一一九・一八）

授業の準備ができたなら、次に何をしようか？

主題を知るのは教師にとつての第一段階です。しかしその主題を生徒が理解し、自分たちの心の中で正しく評価して受け入れなければ、満足のいった学習はなされません。学課を教えるということは、ただ単に知識を分けてあげることではありませんし、学ぶということは知識を得ることだけではありません。学ぶということの中で、靈的真理を受け入れ、自分の生活に適応をしていく時に、生徒の心の中には変化が起こり、その証拠が外面的にも表われてきます。どの学課の真理も、またどの授業で使われるテクニクも、ただこの事を目的として用いられているのです。教師は聖書の真理、教理、様々な事実に関する知識を生徒に学ばせなければなりません。そうすれば、今度はそれらのものが生徒とキリストとの個人的関係を作り出し、生徒の日常生活にも感化を与えるようになるのです。

ある人は飛行機を操縦したいと思ひ、またある人はサボテンを育てたいと思うかも知れません。その場合、二人共、それぞれの法則に従わなければなりません。中学生に神のみ言葉を教える場合も同じことです。A・J・ウィリアム・マイヤーズは次のように定義を下しています。「法則とは観察の結果、研究の

対象となったものの本性であるともみなされたものを言葉に表わしたものにすぎない。」学習の世界にも、やはり守らなければならない頭脳や感情の法則があるのです。有名な教育者であり、心理学者であるE・L・ソーンダイクは学習に関する三つの基本的法則を次のようにあげています。

一、心備えの法則 これは簡単に言えば、生徒の興味や注意が呼び起こされるなら、生徒は学習過程を喜んで行なっていく心備えができるということです。ですから中学校の教師は生徒の側に心備え、または願いを呼び起こすような状態を作り出す努力をします。でもこれは思ひがけない時にひょっこり出現するかも知れません。

十三歳の女子中学生のクラスが「子供たちを祝福されたイエス」の話を学んでいました。教師は雑誌の中から、いろいろ変わったポーズをした子供たちの、きれいな写真を見つけて持ってきました。その一つは、ごちゃごちゃした町の貧民街の中の長屋の階段に一人ですわっている、小さな中国の女の子の写真でした。カメラは少女の孤独な表情をうまくとらえていました。女学生たちはそれを見て一斉に同情の叫びをあげました。生徒たちの気持を感じていた教師は、次の土曜日の午後に生徒を自分の家に招きました。そこで生徒たちは、あらゆる人種の子供たちの絵を集めて美しいスクラップ・ブックを作りました。表紙には子供たちを祝福している主イエスの絵をつけました。お菓子とココアのあとで、教師は生徒たちを車に乗せて市民病院へ行き、小さな病人たちにその本をあげるようにしました。その教師は愛をもってほかの人たちの面倒を見てあげることにより、生徒に立派な学課を教えることができたのです。

二、練習の法則 何でも繰り返して行なえば次第にそれは楽にできるようになります。習慣というのは良い習慣でも、悪い習慣でも、皆この法則によって形作られるのです。クリスチャンでない家庭の中学生が、特別な理由もなしに一回日曜日を休むと、次の日曜日も休みたくなり、更に続けて休むようになって、遂には完全に離れてしまうようになります。また、逆に、祈りこそ神から助けをいただく方法であるということを教え、生徒が実際に自分の困った時にそのことを体験するならば、その生徒は次の時にも信仰をもって祈ることが楽にできるようになります。そして自然に、祈りがその生徒の生活の一部分にまでなっていくのです。ですから中学校の教師は、新鮮な、しかも変化に富んだ方法で学課の真理を示さなければなりません。そのようにして与えられた印象は、生徒の中で強いクリスチャン体験となり、いつまでも続く体験となっていくのです。

三、効力の法則 学習においては、行動によって得た結果は決定的な要素です。また興味と注意が学習に先行するというのを忘れないで下さい。授業時間をよく調べて下さい。つまらなくなったり、あきてくると、生徒の興味と注意は離れていってしまいます。満足させてくれるものは何でも好み、無用に見えたり、退屈に思えるものは何でも避けようとするのが人生の法則でもあるのです。

横田さんは「良き羊飼いであるキリスト」という学課を教えていました。生徒は中学二年の男子ですが、退屈していることがはっきりしていました。横田さんは「キリストはなぜ私たちのことを羊と言ったのでしょうか。なぜ犬とか、馬とか、牛とか言わなかったのでしょうか」と質問しました。この質問にびっくりした少年たちは少し困ったような顔をしました。この少年たちは都会の子供でしたが、農家で育った教師は羊の性質を説明することができたのです。羊は愚かな動物で、どんな人にもついて行くし、敵から自分の身を守ることはできないし、まい子になったら、帰り道を見つけないと教師は話していききました。すぐに生徒たちは興味をもって話を聞くようになりました。二、三週間後に、夏夫は学校で、人気を得るために一つの悪いことをしようという誘惑を受けました。その時夏夫の頭には「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った」という聖句がひらめきました。夏夫はその瞬間、心をきめました。「僕はイエス様のそばにいたいようにしよう。そうしたら安全なのだ」と夏夫は考えたのです。夏夫は横田先生の、キリストは私たちの羊飼いですと言った言葉を思い出して、誘惑に勝つ力を得ることができたのです。

教師がしたいことを全部するには、日曜学校の時間は余りにも短過ぎます。ですから時間の配分を注意深くしなければなりません。教師は日曜学校開始十分前には来て、教室はきちんと整っているか、黒板はきれいか、出席簿はあるか、などと調べておくことが大切です。全部が気持よく整えられているならば、自然、勉強の雰囲気もそのように整えられていきます。いざ、分級の時間が始まりましたらすぐに、教師は手早く、きびきびと出席その他の記録をとるようにしなくてはなりません。分級開始後、五分以内には授業を始めるようにスケジュールを組んで下さい。

どの教授法が一番良いのですか？

もし生徒が教師の努力に対してすぐに反応を示してくれらしたなら、それは素晴らしいことです。ところが残念なことに、いつも反応があるとは限りません。中学生たちは自分たちの教室に来る時でも、自身に興味を覚えていることで頭が一杯だったり、注意を向けるのもいやなくらい怠け者だったり、靈的な事には全然関心がないような状態があります。そういう生徒の態度によって、教師の務めも、また非常にむずかしいものとなります。しかしサタンが一人一人の魂を得ようとしていることを思い返して、教師は一人一人をキリストのもとに導こうという新しい決意に燃え立たなければなりません。そこで、学課はどのようにしたら一番良く教えることができるのかということが、非常に重要な問題となります。一体、どの方法が一番、生徒に刺激を与え、キリストとみ言葉に应答するように、生徒の心を呼び出すことができるのでしょうか？

この解答は「完全な方法はありません」ということです。ですから、ほかの方法を全く除外して、一つの方法だけを用いるということをしてはいけません。良い授業というものは、その時、その時に合ったいろいろな方法を用いるもので、幾つかの方法を併用することも多いのです。

### 質疑応答法

質問というものは人間の歴史の初期から、重要な役割を果たしてきました。偉大な教師であったキリス

トも手際よく、質問を用いました。質問によって重要な問題が提起されることもあるし、考え抜かれた解答によって、問題へのはっきりした定義が下されることもあります。ごく自然な好奇心も質問の形で表わされます。

教師が生徒の考えを刺激し、その結果、生徒から質問が出た場合、その質問は三つのことを現わしています。

- (1) 生徒は教師の考えを正しく理解しているだろうか？
- (2) 生徒は教師が願っているような方法で教えを受け入れただろうか？
- (3) 教師は、生徒が示した興味を用いて、更に深く、広く学習をさせることができるだろうか？

質疑法を用いる場合、四つのことを注意して下さい。

一、質問は注意深く考え、一字一句書き出してみるべきです。学課の目標を土台とした質問を作り、生徒の思想をその方向に向けるように質問を用いるべきです。特に注意することは質問の意味が明白であるようにすることです。よく聞くのですが、「今日の学課について何か知っている人はいませんか」というのは、悪い質問の一例です。実際問題として、教師は質問を通して、生徒たちを更に新しい真理の理解へと導き、物事を進んで研究する習慣を作るようにするのが本当なのです。

二、質問は興味と好奇心をかき立てるものでなければなりません。安藤さんは「失われたものを捜すキリスト」という学課を教えるところでした。そしてまず、中学科女子の生徒たちに「皆さんは五十円をどこかでなくした時も、何かの記念にお父さんたちに買ってもらった金時計をなくした時も同じように思いますか？ もし同じでなければ、感じ方はどういふ風に違いますか」と質問しました。生徒はもち論、お金よりも金時計をなくす方が大きな損失だと言いました。そしてお金をなくした場合、しばらくは捜すでしょうが、間もなくそのことを忘れてしまうでしょうと言いました。しかし、時計をなくした時は、もっと一生懸命捜すように努力します。広告を出したり、賞金を出したりさえするかも知れません。こうして生徒たちはなくした物の価値が大きければ大きいほど、それをなくした時の後悔も大きいということがわかります。これは学課のいとぐちとして教師が質問法をうまく利用した一つの例です。

三、質問は注意を再び引きつけるのに役立ちます。良い質問は散漫になっっているクラスの注意力や、かかんでいたずらをしてしている生徒の注意をもう一度呼び起こすのに非常に役立つ方法です。

四、質問は生徒の持っている知識を調べるのに使うことができます。教師の頭でははっきりとわかっていることが、生徒の頭の中では全く混乱している場合、教師はいささか狼狽させられます。その場合、教師は生徒の居る立場に戻って、もう一度やり直しを始め、既に知っている事を土台としてその上に、まだ知らないことを教えていかなければならないのです。その際に、生徒の持っている知識の限度を知る一番

良い方法は質問をすることです。

### 物語法

物語法は、親から子へ、子から孫へと口伝えに知識が伝えられていた大昔から、伝わっている方法です。真理を伝達する方法としては、いつの時代にも、物語が一番良く用いられたのです。これはまたキリストが好んで用いられた方式でもありました。

物語法を用いる場合、次のことを注意して下さい。

一、注意深く物語を選ぶこと 物語のための物語では授業として効果がありません。物語を選ぶ場合、まず、その物語の目的、そこに含まれている真理、学課としての有効性などを調べることが必要です。その意味で、<sup>〔訳1〕</sup>宣教日曜日には、身近な宣教師の中から、信仰の勇者と思われる人の話をするのが最も適当なことと思えます。

〔訳1〕アメリカの教会では毎月第何日曜日は宣教日曜日ときめ、宣教献金をしたり、宣教活動を強調した集会をしている。日曜学校でも同じである。

二、徹底的に準備をすること 物語を効果的にすることは一つの技術ですが、この方法を用いて成功したいと思う人は、それをマスターすることができます。それにはまず、物語の主な要点を良く知ること

す。そして主人公や、主な事件を、完全に自分のものとするまで学んで下さい。ややこしい、細かな事は除いてしまうのです。

物語が学課の目標をどのように強調するか、また自分の願っているような印象を生徒にどのように与えるかを、注意深く調べ、計画して下さい。物語の道徳的な教えは、話をしていく間に感じとれるようにしなければなりません。それは物語の最後の方で付け足しに話すだけでは効果がありません。

物語は一字一句暗記して、間違わないように話すものではなく、自分の言葉で、自分の自然な声の調子で話すべきものです。物語の中の活動はスムーズに速く動くようにするべきです。そして短い、簡潔な文章を用いるようにして下さい。

物語を話す練習もして下さい。上手に話をするためには、言葉が自然に、そして楽に出てくるように練習をしなければなりません。途中から戻って、言い忘れた細々したことを話し直す必要はありません。声の調子を変えたり、表情を変えたりして、物語を生き生きとさせ、感情を表わすようにして下さい。話の最中には自分のことなど忘れて下さい。そして話の中の人物や事件が、聞いている人たちに現実のものであるかのように感じさせるのです。切れ目がないように、次々と話を展開して、クライマックスに達するように持っていくことに注意して下さい。

三、奉仕に対する誘因として用いること 良い物語は、その中に目的を持っています。そして聞く人々の心の泉、または動機に働きかけて、行動に移るようにならせます。物語を聞いて、何かが必要だとわかれ

ば、生徒はすぐにそれに対処しなければならぬように感じるので、賢い教師はそのような機会を逃がさずに用いて、クリスチャンとしての何かの奉仕を計画するように話をもっていくのです。

## 討 論 法

この方法を用いる場合、教師はクラスの討論を導くことができなければなりません。生徒は皆、それぞれ自分の意見を言いたがりますので、正しく指導するならば、この方法は面白く、また訴えるところの多いものなのです。しかし、教師はいつも討論の目的を忘れないようにすることが大切です。討論は学課の目標に合わせてしなければなりません。そしてあらかじめ計画を立てて、生徒の体験する問題を提出し、共に神のみ言葉による解決を得るよう努力して下さい。この方法を用いるに当たって、次のことを注意して下さい。

一、クラス全員の参加を求めること 「三人集まれば文殊の知恵」一人の生徒があることを提案することにより、別の生徒の頭の中に新しい考えが浮かぶかも知れません。そしてその考えに、また別の生徒の考えが加わって、ついには満足のいく解決が与えられるようになるのです。

時には思いがけない方法で、一つの質問から討論が始まり、それが一つの計画を生み出すまでに発展していくことがあります。ある日、光雄は歯の痛みをこらえながら日曜学校にきました。そして「僕の歯医者さんは土曜日に教会へ行くんだよ。だから月曜までは治療してもらえないんだ」と言いました。そして

「先生、僕たちはなぜ、日曜日に教会へ来るのですか」と渡辺先生に質問しました。渡辺先生は、す早く頭を働かせました。渡辺先生は、その歯医者セブンスデー・アドベンチストなので、土曜日を安息日として守っているのだと説明することができたのです。けれども渡辺先生は「この質問についてはこの次の日曜日にみんなで話し合ひましょう。それまでに一人一人別々に、いつ頃、どういうわけで、一週間の最初の日が主の日になったのか調べてきましょう」と言ったのです。次の日曜日には沢山の資料が集まりました。光雄は歯医者さんに、なぜ土曜日を安息日として守るのですかと聞いてきました。次の日曜日、渡辺先生はみんなの話し合ひのあと、安息日は律法時代のもので、主の日は恵みの時代のものだと説明をして結論を出しました。それはクラス全員が喜んで体験した一つの忘れられない学習体験でした。

**注意** 二、三人のおしゃべりな生徒が討論を独占してしまわないように注意して下さい。クラス全員の参加を求めるためには、教師が一人一人の生徒に適切な質問を向けることが良いようです。

**二、考えを刺激すること** 教師は一人の生徒の考えを刺激することにより、別の生徒にも考えるようにさせることができます。しかし、討論というものは、一人の意見が、今討論されている問題の解決に貢献する場合にだけ有益だと言えるのです。ですから教師はここでも、一同の考えを主題と密接な関係を持たせて導き、保つことが大切です。

**注意** 静かな話し合ひが、熱っぽい議論になることがあります。時には個人的な敵意が表わされ、その結果、うらみが残るようなこともあります。そのような場合、教師は別の考えを紹介して、その線に沿

った意見を引き出すようにしたら良いのです。そして常に秩序を保ち、生徒がお互い同志、尊敬できるようにしてあげなければなりません。

**三、寛容と他人の意見を尊重する態度を養うこと** これは中学生にとっては大切な学びです。偏見や、我慢できない狭量さは危険です。ですから討論を導く場合、教師は自ら一人一人の生徒の意見を尊重し、その意見に対するクラスの反応を注意深く導くようにしなければなりません。

**注意** よく討論が討論でなくなり、目標のないおしゃべりになったり、何の結論も出ないで、から回りになることがあります。その場合、達成することは何もなく、貴重な時間のみが失われることになりま

す。こういうことになる一つの理由に、教師が生徒のことを良く知らないということがあげられます。更に教師は討論を導く場合、自分が教師であるということを放棄してはいけません。有益な靈的解決を得るように討論を導くのは、実際に教師に与えられている職務なのです。

**四、生徒共通の問題解決に貢献すること** 学課の目標を捜す場合、教師は、生徒の日常生活の中で起こる事と結びつけられる問題を見つけるようにするべきです。

たとえば、「神の律法に従う」というのが学課の主題だとしましよう。生徒たちは世的な標準を守っている、クリスチャンでない家庭の子供たちだとします。教師は「規則は必要だろうか」という質問を中心

とした討論を熱心に計画しました。そして次の日曜日に教師は次のように始めます。「みんな目を閉じて、次のような言葉がこの町で行なわれたら、どんな状態になるか、想像してみてください。『人々はおのおの自分たちの目に正しいと思うことを行なった。』ちょっと静まってから、教師は「あなた方の生活はどうなりますか」と質問します。すると一人が「警官がいなくなります。法律が無くなり、どろぼうから身を守ることができなくなり、交通法規も、道徳の規律も、人格の標準もなくなってしまいます」と言うでしょう。そこで教師は、人々のために靈的標準を立てて下さった、神の愛と知恵について話し合いを導いていくことができるようになるのです。

**注意** もし問題が生徒の関心がないものである場合、生徒の注意はなかなか引きつけられません。生徒は自分たちが関心を持っている状態に直面した時のみ、自然に討論をするようになるのです。

## 講義法

この方法は中学生の必要に応じるのに最も適当な方法とは言えません。しかし授業の中で、それなりの役割を持っていることは事実です。講義とは普通、ある主題についての論文、または演説を正式に提示することであると考えられています。簡単に言えば、それは口頭による提出ということです。中学校の教師はある真理を説明したり、實際生活への応用を教えたり、何かについて教える場合に、この方法を用いるのです。この方法は他の方法と一緒に用いるのが、最適だと思われれます。

講義法の利点は次の通りです。

一、話し言葉を使うこと 話し言葉には印象づける力があります。教師が気持の良い話し方をし、生徒に理解できる言葉を用いるなら、生徒に自分の言おうとしていることをわからせることができますはずです。

**注意** この方法だけを用いると、生徒の参加する余地がなくなります。教師が話を全部していると、生徒は受動的な聞き手になりがちです。教えるということは単に知識を分け与えるということではありません。生徒の知性、感情、意志が皆、かき立てられて活動するようにしなければなりません。ですから、大抵は単なる講義法よりも、個人的に訴える方法の方が効果的なのです。

二、教師の人格を反映すること 良く教えるためには、教師は自分の全存在を学課の中に打ち込まなければなりません。教師の熱心さ、誠実さ、まじめさ、教えようとしている真理の個人的体験などが皆、生徒に強力な影響を及ぼすのです。

**注意** 中学生は変化に富んだものが好きです。しかし講義法は単調になり勝ちです。そして生徒の考えを呼び起こすことができず、教師の考えだけを示すようになることが多いのです。

三、物語、例話、興味深い事実などを用いることが可能であること この方法に熟練すれば、教師はこれらのものを用いて、生徒にアピールすることができます。

**注意** この方法では、教師は生徒一人一人の問題を取扱い、必要を満たすことができません。質問法



や、討論法で開かれた機会がここでは失われてしまいました。

四、時間の節約になること それは与えられた時間内に学課を全部すませることができるといふことで、一歩一歩、教師は秩序正しく自分の思想を発展させていくことができます。

注意 ここには教師が余りにも多くの点について語り過ぎ、生徒が覚えられないほど多くの考えが出てくるといふ危険性があります。新しい資料を余り沢山与えるよりも、一つの中心的真理を幾つかの角度から示す方がはるかに賢いことだと思われれます。

#### プロジェクト法（実践法）

理論と実践——これがプロジェクト法の意味です。その目的は生徒たちを学習過程の中に導き、その学びを有益な方法で用いる機会を提供することです。ここで言うプロジェクトとは具体的な計画ということ、それには知的なもの——たとえばパウロの宣教旅行の研究、社会的なもの——たとえば気の毒な人たちに對する奉仕、美術的なもの——たとえば美しい芸術品、または音楽の研究、靈的なもの——たとえば礼拝集会をすること、などが考えられます。この方法を用いる場合、次のことを注意して下さい。

一、これはクラス全体の特別な活動であること ある日曜学校の十二歳の女子中学生のクラスの教師は、学期の初めに、二、三週間後に使う計画を作ろうとしました。その日学ぶのは、主イエスの先祖となつた美しいモアブのむすめ、ルツのことでした。教師はクラス全員が楽しめるような、何か特別なことを準備したいと言つて、生徒たちと話し合いました。生徒たちは小さな人形に、ルツの時代の正式の洋服を作つて着せることをきめました。その仕事は週日に行ないました。そしてルツの話がある日曜日には、教室の展示場に、話の場景ができあがっていました。ルツ、ナオミ、オルパ、ボアズなどが皆きれいにできて並んでいました。このためには、当時の服装を示している絵や本を、生徒が使えるようにしました。そして家からはきれいな、いろいろな布地を持ち寄つて作ったのです。

注意 中学生はすぐに興味を持ちますが、またすぐに興味を失うものです。ですから短時間でできるようなものを計画しなくてはなりません。

二、学習がより自然に、興味深く行なわれるのはその計画の実現途中の過程においてであること 出口さんは自分の受持の中学生男子のことを心配していました。それは、困難に直面した時に、そこから逃げないで、それに直面していく勇氣がある生徒たちには欠けていたからです。そこで出口先生はピレモンへの手紙の中にある、短い話をしました。なぜ奴隷少年のオネシモは逃げたのでしょうか？ オネシモには何が起りましたか？ こう話していくと生徒たちは興味を持ちました。一人の作文の好きな少年が、オネシモのために訴える、パウロのピレモンにあてた手紙を現代文に書き直すことを承諾しました。それはとても良くてできました。そしてそれが読みあげられた時、教師の心にあつたことを話し合う道がよく自然に開かれました。

**注意** あらかじめ注意していないと、活動自体が目的となってしまう危険性があります。前に述べた、人形に着物を作ったり着せたり、手紙を書いたりするのは、皆、目的のための手段だったので。正しい学課の背景を作ることによって、ルツの時代の人々がより現実的に考えられるようになります。そしてパウロの手紙を現代文に直すことによって、赦しと回復という意味が更に個人的なものとして受けとれるようになったのです。

三、生徒に率先力、想像力、創作能力を用いる機会を提供すること それと同時に生徒は責任感と価値感を養うことができます。

**注意** ここにあげた計画（プロジェクト）は生徒が行なうもので、教師が行なうものでないことにくれぐれも注意して下さい。

## 質 問

一、この章について、五つの良い質問を作って紙に書き出し、質問をする技術の練習をなさい。

二、物語法にはどのような利点があるか、自分で見いだしたことを書きなさい。また、なぜ大きな声を出して練習をしなくてはならないのですか？

三、なぜ討論法は中学生に良いのですか？

四、この間の日曜日にあなたはどの位の時間、講義法を使いましたか？ そのほかの方法も用いましたか？ 用いたとしたら、どの方法ですか？

五、プロジェクト法における計画の目的は何ですか？ あなたのクラスではこの方法は成功しましたか？ 成功しなかった場合、それはなぜでしたか？

## 第七章 教室

「人々がわたしにむかって『われらは主の家に行こう』と言ったとき、わたしは喜んだ。」(詩篇一二二・一)

「蔵書を見れば、その人となりがわかる。」これは有名な言葉ですが、これをもじれば、「中学科の教室を見れば、その教師の人となりがわかる」ということになります。そこには、部屋にはいった途端に本能的に感じられる、雰囲気という、言葉で説明のできない何かがあるのです。それは人を引きつけたり、圧倒したり、はねつけたりするものです。

都会の大きな日曜学校に行っていた三歳の男の子が、いなかの設備のあまり良くない日曜学校に両親に連れられて行きました。ところがこの子供は毎週毎週行くのをいやがり反抗しました。そして涙を流して「ここは僕の日曜学校じゃないよ、僕の日曜学校はきれいなんだよ」と言い続けていました。子供はピンク色の部屋、パステル調の色のついた小さなイスを思い出して懐かしがっていたのです。魅力的にするということは、多くの場合、単にお金をかければできるということではなく、理解と努力が払われて初めてできることなのです。

ある人が都会のある日曜学校を訪問して、その教育館の中を案内してもらっていました。中学科の二つの教室の扉があいたままになっていました。その日は月曜日だったので、部屋の中は、きのうの授

業が終わった時のままになっていました。家具や教具などはどちらの部屋にも同じように備わっていましたが、同じなのはそれだけでした。第一の部屋の黒板には次の文が書いてありました。「静かにして、話をしてはいけません。」床に散らかっている、ちぎった紙きれから推測できることは、生徒たちは他の方法で話をしていたということです。いすはごちゃごちゃになっていて、生徒用の教案は破れて散らかっており、地図は使われないうまになっていました。

第二の教室の黒板には次のように書いてありました。「お早うございます。今日、主の家に来れて良かったと思う理由を五つ、二、三分の間に言えるように準備して下さい。」黒板にはそのほかに、教師が授業中に書いた、読み方や、意味のむずかしい言葉や、生徒の考えを関係づけるような言葉が書いてありました。地図は丁度、学課の事件が起こった場所を示していました。その時は秋の季節でしたが、美しく色づいた木の葉が掲示板に何枚も貼ってありました。その少しばかりの明るい色が、教室全体のアクセントをつけて、ほのぼのとした、親しい感じがあたり一面にただよっていました。

たしかに小さく、貧しい日曜学校は、いつでも自分たちの希望通りの場所や道具を揃えることができないでしょう。しかし、「精神一到何事か成らざらん」で、その気持があるならば、最も必要なものは何と少しでも備える道が開かれるものです。「貧しいことは恥ではない」と言われています。しかし無為無策であり、不注意であることは恥です。神の家は注意深く管理をし、清潔にし、あらゆる努力をして礼拝と学びをするために心の引きつけられるような場所にする必要があるのです。

では中学科にとって重要な設備とはどんなものでしょうか？

最近私たちの教会で、教育館を建てるところが段々ふえてきています。そしてその中に科の必要が予測され、適切なものが備えられるようになってきています。小さな中学校でも、本当は中学校だけの開校礼拝をすることのできる集会所が必要で、それは生徒にグループ意識を持たせ、教会への忠実さを養うために必要なものです。この集会所を設計する場合には、生徒一人に約〇・六平方メートルの場所をとるようにして下さい。

注意が散漫になるのを防ぐため、入口は教室の後方につけます。そうすれば遅刻した生徒はほかの生徒に気付かれずに自分の席に着くことができるし、訪問客や科の役員たちは礼拝の邪魔をせずに出はいることができます。あらかじめ気の散ることがわかっていて、それに対処できれば、静粛を勝ち得ることができるとです。

私たちは無意識のうちに部屋の色の配合に反応を示します。ある明るい色は興奮させますし、ある色は神経を静め、休ませます。暗く冴えない色は圧迫感を与え、家具と調和のとれた柔らかい色は礼拝の雰囲気を作り出し、霊的なものへ心を向ける助けとなります。ですから色の選択は注意深く行ない、できれば専門家の助言を受けたいら良いでしょう。

### 必要な器具

中学校の器具は効率、心地良さ、魅力などを考慮して準備するべきです。器具として必要なものは次の

通りです。

すわり心地の良いイス できたら一人一人のイスが良いのです。イスの足にゴムをはめてあれば、騒音を少し分和らげることができます。イスの色があまり良くないようならば、部屋の配色と合うように塗り直して下さい。

〔訳1〕〔訳2〕  
ピアノと賛美歌 古いピアノでも塗り直せば、集会所の形も整うし、賛美の役にも立ちます。日曜学校の器具の中でピアノほどなおざりにされるものはありません。鍵盤がよごれているのはいつものことですが、毎週掃除をしないので、ほこりが一杯たまっていくようです。

〔訳1〕 日本の場合にはピアノという言葉オルガンとおきかえて考えたら良い。以下同じ。  
〔訳2〕 賛美歌、聖歌、その他生徒用のでも同じ。生徒に買わせるのも良いが、教会に備えることも必要である。

中学科書記の机 入口の近くに席をとれば書記は生徒がはいつてくるのを見ながら、楽に出席記録をつけることができます。こうすれば授業時間が始まってから記録をとる場合に起こる混乱を防ぐことができます。

物をしまおう戸棚 教材、賛美歌、季節ごとの飾りつけ、白墨その他類似のものは注意深く保存しておくことが必要です。そのための適当な戸棚があれば教師たちは助かります。しかしその大切な格納場所も、

始終ごちゃごちゃになっているがらくた入れになっているなら、その用を果たしません。教材はきちんと積み重ね、あまり使わないものは箱に入れておくのです。それには計画と注意深さが要求されます。神の家と、そこで用いられるものには、絶えず手入れがゆき届いていなければなりません。

**掲示板** これの用途は沢山あります。科の報告や案内を掲示することができますが、そのほかに、欠席している生徒から来た面白い手紙やカード、宣教師に関するニュース、宣教師や外国のペンフレンドの写真、覚え書きなどを貼ってもよいのです。しかし使わないものは失われていくということを覚えて下さい。掲示板が何週間も同じままだと、訴える力がなくなりません。そこには毎週何か新しいものがなければなりません。クラスごとに順に掲示板の責任を持たせるようにしたり、芸術的才能のある生徒に原案を作る機会を与えるのも良い方法でしょう。

**洋服掛け** 科ごとに外套、携帯品を置く部屋（クローク・ルーム）があれば理想的ですが、それができなければ生徒の帽子やコートを掛けるフックだけでもつけるようにして下さい。

## 教室の設備

どんな設備が教室にいらるのでしょうか？ まず私たちは小さな日曜学校で、あまり大きくもない部屋

を教会堂として使い、日曜学校にも使っているところのことを考えましょう。会堂の座席でもつクラスにも、ある条件が必要です。部屋が暑過ぎても寒過ぎても不快な感じがし、注意力が鈍くなります。採光、換気、いすのすわり心地などについても注意深く考えなければなりません。ある工夫に富んだ教師は、教会の使われていない隅や、倉庫などを教室に改善して使っています。また日曜学校の時には使わない聖歌隊席も、カーテンをして見えないようにすれば教室になります。中学生たちは、自分たちだけの部屋になる場所を形作るのに、喜んで協力するでしょう。しかし生徒たちをだましてはいけません。快適で、設備の良く整った教室を作ってあげるまで、努力を続けて下さい。

教育館の中に新しい教室を設計する時には生徒一人につき一・一一一・四平方メートルの場所をとるようして下さい。設計の時に採光と換気に良く注意して下さい。アスファルト・タイルは床材として満足できるもので、良い色のものが沢山あるようです。カーペットを敷くのも、堅木のフローリングも良いのですが、板の床はどうしても傷つきよごれやすいようです。壁と天井は柔かなパステル調の色にすれば、気持の良い雰囲気が出てきます。必要な器具は次の通りです。

〔訳3〕ビニールタイルなど同類品が数多くある。

**適当ないす** 教室用のいすで、本やノートを置くように広いひじ掛けのついているものが一番良いと思います。

**黒板** 黒板は欠くことのできないものです。それは生徒の注意を捕えるための大切な道具です。手早く

パレスチナの地図を書き、事件や場所をはっきりさせたり、むずかしい言葉を書いて説明したり、図表や問題、参考になる考え、学課の概略、討論の問題点、生徒が出した答えなどを書いたり、そのほか幾らでも黒板の用途はあります。

掛け地図や掛け図 授業中に教師も生徒もこれを使うべきです。聖書地理を学び、重要な場所の位置を覚えることによって、聖書の人物や事件が一層身近なものとなってきます。

掲示板 掲示板にピンでとめた、きれいな色の絵は生徒を明るく歓迎するようです。同様に、学課の絵や、奉仕の絵も上手に使うことができます。生徒に、雑誌や新聞から切り抜いた面白い切り抜きを掲示するように勧めたらよいでしょう。

物をしまおう戸棚 教室を整理しておくためには、余分な生徒用教案や、絵、花びん、白墨、地図、紙、鉛筆などをしまっておく場所が必要です。

適当な絵 教室に掛けた良い絵は生徒に敬虔な静かな態度を持つように感化を与えます。中学生に勧められる、有名な絵には次のようなものがあります。

「キリストの頭」 ウォーナー・ソルマン筆

「キリストと富める若き役人」 ホフマン筆

「キリストと漁師たち」 ズイマーマン筆

「晩鐘」 ミレー筆

「汝の天を想う時」 テイラー筆

「世の光」 ホーマン・ハント筆

聖霊の力を持たず、キリストの臨在を感じる事ができないならば、どんな立派な教育館もただの建物になってしまいます。私たちは中学生に最高の設備と器具を与えたいと思いますが、それ以上に私たちは、教室が、生徒の魂がキリストのものとなされ、み言葉の真理を理解し受け入れるように頭脳が訓練され、主の奉仕に生徒の生活がささげられていく場所となるようにしたいものだと思います。

## 質 問

一、あなたの教室を説明しなさい。この章に描かれているものと比較してみなさい。あなたは自分に与えられているものを最高度利用していると思いますか？ 更に改善することができますか？

二、開校礼拝の時に、生徒の注意をもっとそらさないようにするには、何を交えたら良いと思いますか？

三、掲示板にはどのような価値がありますか？ 地図には？

- 四、あなたの教室の採光と換気を調べて下さい。今のままで良いでしょうか？
- 五、あなたの教室は心を引きつけるような部屋で、整頓もされていますか？ 敬虔な気持、学ぶ気持が起りますか？

## 第八章 中学生の獲得と保持

「あなたのまことをもって、わたしを導き、わたしを教えてください。」（詩篇二五・五）

新任の中学科主任は科の記録を熱心に調べていました。中学一年生の出席は満足できるものでしたが、中学二年生は欠席が多いようでした。しかし中学三年生の出席状態を見た時、中学科の指導者は顔を曇らせました。そして次の教師会の時に、この問題をみんなの前に公表しました。

主任は「なぜ、中学生は日曜学校に興味を失っていくのでしょうか？ 過去の記録を見ると、進級式を終えたすぐあとで、生徒たちは日曜学校からも、教会からも離れてしまうことがわかります」と言いました。教師たちは自分たちの科の記録を研究した結果、次のことを学びとりました。

### 脱落の理由

一、一番脱落するのは両親が教会に来ない家庭の子供です。親の願いからでなく、自分で来たいと思って日曜学校に来始めた生徒は脱落しやすいのです。家族全員が日曜学校と教会に出席している家庭の子供はそうなりません。教会に出席する家庭の日曜日の朝は、急いで朝食をし、出かける仕度をし、時間に遅

れないように飛び出すという風に、戦争のようです。それに對し、教会に行かない家庭はどうでしょう。そのつもりになれば、いつまでも子供たちは寝坊をしていることができます。寒い冬の朝や美しく晴れ渡った夏の朝など、本当にその氣にならなくては一人で起きて日曜学校に来るなどということはできないのです。

二、新しい社会的接触　クリスチャンでない家庭では、教会や日曜学校が認めないある種の商業的娯楽やリクリエーション的快樂が受け入れられています。中学三年生は中学校を卒業し、高校へ行く準備をしているところです。ですから強力なクリスチャンの影響が絶えず与えられていないと、学校の仲間と一緒に流されて行きやすい状態にあるのです。生徒たちが最初に日曜学校に引かれてくるのは、言葉に言い表わせない、ある社会的必要からかも知れません。ですから時には学校で一同に受け入れられることとか、評判が良くなるのかいいうことは、新生の体験をし、両親の祈りによって支えられている生徒にとっても、とても大切なことに思えるのです。ですから十代の少年たちには、多くの理解と指導が必要です。

三、仲間になることの失敗　十代の少年少女たちにとっては、同級生に受け入れられるということは、幸福になる絶対的条件です。中学生が、自分はこのけ者だと考えるには、幾つかの理由があります。その中でも一番不親切で、利己的で、思いやりの無い理由は徒党（グループ）の存在ということです。これは、特に女子に、必要な悲しみを体験させるのです。慶子は日曜学校のクラスの、ほかの子たちと同じ位、きちんとした身なりをした、かわいらしい少女でした。家庭も良い家庭ですし、学校では成績も良く、みんなに好かれていました。でも慶子は日曜学校の中学一年のクラスにはいった時には、少し恥ずかしいの

で遠慮をしていました。クラスの中の三人の少女はとも仲良しでしたが、ほかの四人に對しては友だちになろうとはしませんでした。慶子の両親と弟も日曜学校と教会に出席していましたが、慶子がみんなと一緒に楽しくやってほしいと思っていました。ある朝のことです。日曜学校のあと、慶子は例の三人がすわっている会堂の席に近づいて行きました。すると三人はお互にくっつき合って、慶子を全然無視しようとしているのを、そばにいた慶子のお母さんが見ました。その事があった後、慶子とその家族は目立たないようにこの教会を出て、よその教会の会員となって活躍するようになりました。日曜学校の教師が本当の理由を知ったのは何週間もたってからのことでした。教師は三人の生徒と話し合いました。三人は自分たちの考えの足りなさ、利己主義が慶子の心を傷つけ、その結果慶子がよその日曜学校に行ってしまったことを知った時、すぐに後悔しました。そこで教師は「慶子さんはもう行ってしまいました。でもあなた方は、クラスのほかの人たちにその償いをしなさい。グループを作ると、利己主義の狭い心の人になってしまいます。広い心を持って、神様のみ言葉を一緒に学ぶ人たちみんなと仲良くなりましょう」と話しました。

中学生は衣服や、家庭環境の違いから、仲間はずれにされていると感じることもあります。自意識が強く、自分の着ているものや、家がほかの生徒のように良くないというので気になる生徒は、日曜学校から完全に脱落してしまう可能性が強いです。しかし、それは反対の状態でも、ある女子中学生が不幸になつた例があります。清子は一人っ子で、多くの点で恵まれていました。静かな、教養のある身のこなしが、日曜学校のクラス全員の攻撃的となっていました。それに対し反駁もできないほどおとなしい清子



は、いつも学校に着て行く普通の服を日曜学校に着て行って、一同に受け入れられようと努力しました。その教会と日曜学校で活躍している両親も、清子がその面白くない事情を解決できるようにといるいと協力しました。しかし清子には今でも、あの中学校の同級生については、あまり良い思い出が残っていないのです。教師にとってこのような状態を解決するのは、大抵、非常にむずかしいことです。と言うのは、「隠れたる戦争」はなかなか見つからないからです。しかし、もし教師がそのようなグループのリーダーの協力を得ることができれば、親しみのあるクラスを作ると言う計画に、みんなが賛成するようになるでしょう。

更に、ただ近くにあるからと言うだけで出席していて、これは自分にとって特別な意味を持つ、かけがえないクラスだという意識を持っていない生徒は、その家庭が少しでも遠くに引越してもすると、すぐに脱落する傾向があります。

## 生徒の保持

中学生はどのようにしたら日曜学校に結び付けることができるのでしょうか？ これは中学校主任や教師の一番大きな問題です。しかし、これなら絶対間違いないという、経験済み、証明済みという方法はありません。あらゆる努力をしてみても、なお生徒が離れて行く場合、教師は全てを天の父にゆだねて慰めを受けることができます。主は、み言葉はむなく帰らないと約束しておられます。しかし、その

前に中学科主任と教師が、生徒を保ち続けるために努力してみなければならぬことが沢山あるはずで  
す。次にその幾つかをあげてみましょう。

## 訪問

生徒の家庭を訪問することは最善の方法です。教師にとって両親の信頼を得ることは、生徒との関係において非常な強味となります。その家庭が未信者ならば、大家族をキリストに導く機会がそこに出てきます。訪問することは、その生徒に対して興味と関心を持っていることを示し、また教師には家庭環境などの情報を得る手段となります。しかし最大の効果をあげるためには、組織的に訪問計画を立てて実行しなければなりません。多くの日曜学校では、毎週一晚を訪問のために使って成功をしています。出席係の書記は、欠席者の氏名を書き出して、日曜学校の終わりに、教師たちに手渡すようにします。それに従って訪問がなされた後、教師は訪問の報告と、生徒が欠席した理由を書いて提出し、書記はそれを記録のファイルに綴じるようにします。

訪問は短い時間で終えるべきです。日曜学校を休んだことについて、親しみのある態度で聞き出したり、心配していたことを表明するのは、二、三分もあれば充分です。欠席したためにもらえなかった日曜学校新聞を持って行ったり、クラスの面白い話や、計画された行事の報告などを教えてあげるの、思いやりのある態度だと思えます。今は忙しい時代です。多くのお母さん方も外に出て働いています。そして日曜学校の働き人も、大抵は忙しい活動家たちなのです。しかし、たとえそれが大都市の日曜学校で

も、小都市やいなかの日曜学校でも、訪問計画は絶対にしなければならないことです。これは主イエスに對する奉仕であるとして受け入れていくならば、豊かな満足を報いとしていただくことができるでしょう。

## 連絡

はがきや手紙は、欠席をした生徒に、みんながとても残念がっていることを知らせるのに効果的な方法です。しかし中学生にとっては、その目的のために印刷されているカードよりも、普通のはがきに個人的な手紙が書いてある方が、有難味があるということを覚えていて下さい。

電話をかけることは、一層個人的ですし、時間の節約にもなります。また教師は生徒や両親と直接、接触することができません。ですから電話を用いて、クラスの出席率を百パーセントにするようにして下さい。授業の終わりに一人一人の生徒に、クラスのメンバーの電話番号が一つずつ書いてある紙片を取らせて、次の土曜日の夕方に、その生徒に電話をかけて、日曜日の学課の予習をし、明日は遅れないで日曜学校に行こうと誘うようにさせるのも一つの良い方法だと思います。

## 計画

元気の良い、生長しつつある、活動的な若い頭脳や肉体は変化のあることを求めます。中学生は興味をかき立て、自分の技術をためすような計画にはすぐ反応を示します。教授法としての計画の使い方は既に

前に話しましたが、ここでは中学生の出席を保つ方法として、生徒の協力を得る企画を計画することを考えてみましょう。二つのグループによって実行された、二つの例を次にあげることになります。

高田さんは中学三年の男子のクラスを教えていました。これは中学科での最後の年ですので、高田さんは期待していました。何人かの生徒は未信者の家庭の子供ですので、高田さんはあらゆる機会を利用して、彼らを日曜学校と教会に結びつけようと思いました。高田さんは中学三年女子のクラスの教師である黒川夫人に自分の計画を話して、二人で共同の計画を立てました。ある晩、親睦会が開かれました。その会の終わりに高田先生は、自分の考えを生徒たちに話しました。この町は小さな工業都市で、最近、他の町から仕事の都合で移ってきた人が大勢いました。そのために、教会の会員でも、自分の出席している教会の歴史を知っている人がほとんどいません。もち論日曜学校の生徒も知りませんでした。

二、三週間すると、例年の日曜学校のピクニックがやってきました。高田先生は生徒たちに、教会の歴史を調べて小冊子を作り、その時にみんなに手渡すようにしたらどうかと尋ねました。一同は皆、心から賛成し、直ちに着手するように計画がまとまりました。ある生徒は前に牧師たちの名前を覚えてもらって、その一人一人に手紙を書き、この教会に居た時の働きを簡単に報告してもらい、最近の写真も送ってもらうように頼みました。別の生徒たちは教会の古い会員たちに面接して、教会の初期の話を聞きました。また別の生徒たちは建築当初の教会の写真を見つけ、ほかの教人は増築や改築をした時の写真を見つけました。また、前の会員の写真を捜したり、その人たちに關するニュースを集めたりもしました。教会にオルガンが寄付された時の美しい話も出てきました。それは戦争に行ったまま帰って来なかつ

た、勇敢な、若い一人の兵士の記念としてささげられたものだったのです。三人の作文の好きな生徒が、二人の教師の監督の下で、これらの資料全部を物語風に書き直しました。それに、教会の写真と「私たちの教会の物語」という題をつけた、きれいな表紙をつけました。ピクニックの日のプログラムでは、中学生が主役でした。一人が教会の歴史の物語を読みました。それから別の生徒がそれを牧師と教会に贈りました。この働きをすることにより、中学生たちは自分たちの教会のことを知り、自分たちもこの教会の一員であると感じるようになり、教会に対して忠実に励むようになりました。こうして、この計画の目的は達成されたのです。

もう一つの中学生のクラスは、四回の物語と歌の礼拝集を計画しました。この計画を立てるには二つの理由がありました。第一は生徒に、教会によって愛唱されてきた聖歌や賛美歌を知らせ、またそれを正しく理解させることでした。第二は、欠席しがちな生徒に役割を与えて、特に彼らの協力を得るようになることでした。毎週違った生徒が、一つの賛美歌にまつわる話、その作者、またその歌が書かれた情況などについて話をしました。それからその歌を、独唱、二重唱、合唱などで歌いました。この計画によって生徒たちは興味を覚え、フアン・クロスビーの生涯と歌を研究することになりました。クロスビーが、自分の盲人であることを静かに受け入れ、全世界に賛美歌を通して貢献した事実を知った時、若い生徒たちの心には、多くのことが深く刻みこまれたのでした。この特別研究の期間には出席数も増加しました。それは、みんなが興味を持ったからです。

〔訳1〕 Fanny J. Crosby (1820—1915) 賛美歌作家。聖歌二三三番など、彼女の歌は聖歌の中にも二十数曲あり、皆良く歌われている賛美である。

## 親 睦 会

健全な活動は中学生の生活の中で重要な位置を占めています。それは中学生は集まってリクリエーションをするのが好きだからです。ある高名なキリスト教教育家は「良いゲームやスポーツを楽しみ、また理想を高めていくような人は安っぽい、下品な娯楽のとりこになることは少ない」と体験的に語っています。このような催しは、生徒たちを引きつけ、また一つに結びつけるのに大いに役立つのです。一緒に楽しく過ごすことによってお互いのつながりは強められ、新しい生徒も日曜学校に結びつけられるようになります。

親睦のプログラムを作るには、工夫と細心の計画が必要とされます。ある中学科では変わった誕生会を計画しました。十二のテーブルを一年の十二か月に分けて、それぞれの月にふさわしく飾りをつけ、生徒たちは自分の誕生日のある月のテーブルにつきましました。たとえば、一月のテーブルには冬景色、二月のテーブルにはバレンタイン、<sup>〔訳2〕</sup>三月のテーブルには三月の風をテーマにした風、<sup>〔訳3〕</sup>四月のテーブルには花のつぼみを一杯にした小さな傘を飾るといふ具合です。プログラムの中では、各グループに、その月と関係のあるなぞなぞが出題されたりしました。最後に短い礼拝がなされ、説教者は神によって与えられた貴重な十二か月のことについて話をし、神の栄光と誉れのために用いるように訴えました。

〔訳2〕 二月十四日は聖バレンタインの日として親しい異性に贈物をする日とされています。

〔訳3〕 三月は風の吹く月とされ、風あげなどが行なわれる。

〔訳4〕 四月は春雨の降る月とされている。これらは日本の場合と事情が異なる。

このような楽しい時を計画する場合、目的をきめて計画をして下さい。交わりとは遊び、働き、礼拝を共に分かち合うことなのです。楽しい戸外での活発なリクリエーションの一日の終わりに、キャンプ・ファイヤーを囲んですわっている時に、キリストのみ手に触れることのできた少年少女たちは少なくないので。星の輝く空を見上げている時、中学生たちは神が非常に身近なお方であると感ずることができるとです。

#### 生徒をキリストに獲得すること

中学生全員の新生。これこそ日曜学校の主目的で、一切の企画も計画もプログラムも、これを中心に作られなければならない。学課を教えたり、訪問、連絡をしたり、生徒の友情を獲得したり、そのほか、いろいろな事に大きな努力を払う場合にも、私たちにはただ一つの目的しか無いのです。それは一人一人の生徒がキリストを自分の救い主として知り、恩寵のうちに成長をするということです。教師は皆、自分の生徒がクリスチャンとなる体験をし、更に堅実なクリスチャンの歩みをするように成長することを切に望まなければなりません。これこそ中学生を日曜学校に結び付け、脱落することを防ぐ最善の保障であると言えましょう。

救いの計画を知り、十分に理解することなく、中学科を卒業するような生徒が一人も居ないようにして下さい。救いの方法は生徒に暗唱させて、始終復習するようにすべきです。そのためには次に示す、救いの段階を小さなカードにきれいに書いて渡したら良いでしょう。そのカードには上と下に、端から三センチ位の所に三センチ位の切り口を作り、その幅の赤いリボンを裏から出して、両端を六―九センチの所で切ります。これをつづつ生徒にあげて聖書のしおりとし、暗記する助けとして利用させるのです。リボンの赤は、キリストが十字架の上で、罪のために払われた犠牲を意味するのです。

#### 救いの計画

- 一、自分に救い主が必要であることを知ること。 (イザヤ五三・六)
- 二、自分に必要な救い主はキリストであると知ること。 (使徒行伝四・一二)
- 三、キリストを自分の救い主とする方法を知ること。 (ヨハネ一・一二)
- 四、救われた後にするべきことを知ること。
  - イ、人々の前でキリストを告白すること。 (ローマ一〇・九、一〇)
  - ロ、キリストに自分の命をささげること。 (ローマ二・一)
  - ハ、毎日お祈りをする。 (ピリピ四・六)
  - ニ、神のみ言葉を毎日読むこと。 (詩篇一一九・一一)
  - ホ、収入の十分の一を神にささげること。 (マラキ三・一〇)
  - ヘ、主イエスキリストのために働くこと。 (ヤコブ一・一二)

日曜学校では、年間を通じて、キリストを受け入れるようにという特別な訴えをするようにして下さい

い。決心日はそのための良い機会です。また特別講師として来た伝道師や、教師に、生徒の靈的必要性について語ってもらうのも良いでしょう。このような努力をすることは良いことであり、また、それだけの価値があると思いますが、生徒をキリストに導くという特権は、特に中学校の教師に与えられているすぐれた特権なのです。時には授業をしている間に聖靈が働いて、救われていない生徒たちに認罪の意識が強くなるかも知れません。それは大切な、絶好の機会です。教師も生徒たちも共にひざまずいて、その生徒が救われるように祈るようにしましょう。クラスの中で既に救われている生徒には、毎日、まだ救われていない生徒のために忠実に祈るように頼んで、協力を求めたら良いと思います。生徒は、適切な時に教師が静かに語ったわずかな言葉によって、あたかもそれを待っていたかのように、すぐにキリストに対する決断をする場合が少なくありません。しかし忘れてならないことは、決心をしたばかりの、生まれたばかりのクリスチャンには多くの励ましと助けが必要だということです。生徒には神のみ言葉に寄り頼み、聖靈に導きと力を与えて頂くように頼るよう指導して下さい。また、主に奉仕する道をいろいろと見つければ、奉仕に忙しくさせて下さい。そしてそれ以上に、あなたが生徒のすぐそばに、友として、またカウンセラーとして立っていることを知らせてあげましょう。それには時間も、力も、愛も、祈りも、努力も必要です。しかし中学生はキリストに導き、結び付けなければならないのですから、私たちはこれらのものも喜んでささげてまいりましょう。

## 質 問

一、ここにあげられた理由は、あなたのクラスの生徒の脱落の原因として当てはめられますか？ もし当てはめられるとしたら、それはどれですか？

二、あなたは自分のクラスに徒党や、憎しみがあるのに気が付いていますか？ あなたの生徒は、新しい生徒や訪問客に仲良くしてあげますか？ クラスの生徒お互い同志はいかがですか？ もし仲良くなければ、その状態を解決するのにどうしたら良いと思いますか？

三、定期的に日曜学校の訪問をしているかどうか、自分自身について採点しなさい。

□優秀 □普通 □劣る 欠席者全員に対する連絡についても採点しなさい。  
四、あなたのクラスが行なった計画を説明しなさい。その結果の良い点をあげなさい。弱点はどんな所でしたか？

五、本を閉じ、救いの計画と、その参照聖句を書き出しなさい。できましたか？ 一字も間違わずに書けるまで、そして聖句を正しく引用できるまで、練習をしなさい。

## 第九章 中学生と教会

「わたしは自分の心にかなう牧者たちをあなたがたに与える。彼らは知識と悟りをもってあなたがたを養う。」(エレミヤ三・一五)

人間の心の中には、何かに所属したいという強い願いがあります。小さな子供は家庭の中で、お父さんやお母さんの愛と守りがあれば安心しているのです。生まれて間もない赤ちゃんを通常の愛を受けないようにさせると、不安で、恐怖を感じるようになります。子供が生長して、家庭の外にまで出て行くようになりますと、グループ意識を持つようになります、のけ者にされたと思うと悲しむようになります。中学生ともなれば、自分たちは教会に所属し、教会は自分たちのものであると感じるようにならなければなりません。このことを生徒にはっきりさせるためには、日曜学校と言うよりも「教会学校」と言った方が、良いかも知れません。

では中学生は教会の中でどんな役割を果たすのでしょうか？ 中学生の生長には、家庭、学校、教会という三つのものが貢献します。日曜学校では、中学生は聖書を学び、その中の物語を知り、キリストを自分の救い主として受け入れる機会を与えられます。では、教会からは何を得るのでしょうか？

一、個人的関心 大きな教会では、牧師が中学生を全部個人的に知るということはむずかしいことです。しかし賢い牧師は、若い十代の少年たちとの友情を育てるようにします。ある中学校の主任は、一年

間に三回、牧師を特別講師として招いて話してもらう礼拝集会を計画しました。牧師は順番に、主の晩餐の意味、水のバプテスマの儀式、教会の根本教理などについて話をしました。

毎年一度行なわれるお父さんとむすこの晩餐会では、牧師が彼らと交わりを持つ機会が与えられましたし、お母さんと娘の晩餐会では、牧師の奥さんが主賓として出席しました。また、この中学校の主任は一年の間に、教会の執事たちを招いて親睦の夕べを持つようにしました。執事たちは一人ずつ、自分が中学生の頃にあった愉快なことを話してあげました。このようにして、自分たちの牧師は、自分のことを直接関心を持っている友だちなのだとわかるようになれば、中学生はひたすらな愛情をもって応答するようになるものです。

〔訳1〕 聖餐式のこと。

〔訳2〕 教会役員と云っても良い。

二、奉仕の機会 中学生に興味を持たせ続ける一番良い方法は、中学生を用いることです。昔から「働かせなさい。さもなければ失うことになる」と言われています。教会の責任を負うのはおとなです。しかしながら、中学生でも果たせる役割があるはずで

a、少年少女聖歌隊 音楽は一番素晴らしい奉仕の道です。若い人々の声を年とった人々も若い人々も喜んで聞くでしょう。いろいろな美しい、新しい編曲も最近にはいるようになりました。そのメッ

セージとメロディーは人々の心に触れてまいります。何か楽器をひける中学生は大勢います。そういう生徒たちは教会のオーケストラで楽しくひくことができるでしょう。青少年聖歌隊とオーケストラがあれば、日曜の夜の集会はずい分と盛り上がります。中学生はコーラスを歌うのも好きです。ですから新しいコーラスを幾つか歌うからと言って、週間の祈禱会にも招くようにして下さい。

**b、案内人** 〔訳3〕 父の日には中学生の男子を礼拝の案内人に使うのです。女子の中学生はかわいらしい受付係になりますから、母の日には入口で、お母さん方一人一人にバラの花を贈り、笑顔で歓迎する役を与えたいかがでしょうか？

〔訳3〕 会場係とも言える。来会した人を席に案内したり、献金を集めたりする係。

**c、生け花係** 家庭で花が沢山咲く春から夏にかけて、中学科に会堂の花の責任を持ってもらうことが考えられます。芸術的に花を生けることを学ぶことは面白いことであり、生徒たちは自分たちは主の家の一員であるということを意識し、主の家を美しく飾る喜びをも体験するでしょう。

**d、中学科日曜日** 十月頃のある日曜日を中学科日曜日と決めるのです。そしてあらかじめ予告をしておいて、生徒の両親に招待状を出します。その日には中学生を案内人に使い、聖歌隊で歌を歌ってもらいます。きれいな声を持っている一人の中学三年生に、牧師の選んだ聖句を読ませます。週報があるなら

ば、それも中学生に配られます。こうすることによって未信者の家庭の子供も、自分はこの教会の一員なのだと感じることができるようになるし、救われていない親たちには教会に対して興味を持たせる絶好の機会ともなるでしょう。

**三、青年会** 教会生活の中で一番強く引きつけられるものはキリストの大使のグループです。これはアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の十二才から三十五才までの青年たちの組織です。もし人数が大勢いれば、中学科のキリストの大使の組織を作るようにすべきです。と言うのは、中学生の能力や興味を持つことは、高校生やその上の青年たちの能力や興味とは同じでないからです。この組織の活動会員になった中学生は、大抵の場合、休まずに教会に出席します。日曜学校と青年会は教会員の補給組織です。中学生をこのグループに結び付けることは、中学科を卒業しても脱落しないようにさせる安全装置だと言えます。教会はC・Aと密接な関係を持つことにより、教会出席をふやし、献身を深めさせ、堅実なクリスチャン生活を更に育てていくことができます。

〔訳4〕 アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団では青年会にこの名称をつけている。それはコリント人への第二の手紙五・二〇から取ったもので、Christ's Ambassadors と言うので、大抵は頭文字をとってC・Aと呼んでいる。

〔訳5〕 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の場合は十五才から三十五才までの男女としている。

**四、表彰** 中学科の生徒が学校や町内会その他の所で、特別な名誉を与えられたり、表彰を受けた時

教会からお祝いを言ってもらうことは、その生徒にとっては二重の喜びです。ある教会では毎年きまつて、中学生の男子と女子を表彰します。それはすぐれたクリスチャン品性をもった人で、同時に、指定された題について作文を提出して審査の上、優秀と認められた人の表彰です。この作文の題は「使徒パウロから私の得た教訓」とか、「アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の歴史」とか、「聖霊によって変えられた人ペテロ」といったものです。入選者には夏の青年キャンプに無料で行かせてもらえるという特権が与えられます。

五、礼拝を共にする機会 どの中学科にも、教会の集会に残らないで帰ってしまう生徒が何人か居るものです。この問題を解決するために、ある中学科の主任は面白い計画を始めました。三か月間、中学生はクラスごとに教師と一緒にすわって、礼拝をするようにさせられたのです。その間、毎日曜日、生徒たちは日曜学校の終わりに、謄写刷りの紙を渡され、集会中に書き込むようにと言われました。それは次のようなものでした。

#### 今日の礼拝で学んだこと

日時……………氏名……………  
聖書朗読の箇所(何書何章)……………  
牧師の説教題……………

説教の中で読んでいる三つのこと……………

この報告書と一緒に綴じておき、生徒はそれぞれ自分で工夫した表紙をつけておくようにしました。三か月後に、この報告書は中学科の教室に展示され、牧師と教会の執事たちが審査員になって、優秀なものを決定しました。その生徒には美しい万年筆とシャープペンシルのセットがほうびに贈られました。

ある大きな中学科では、生徒からアンケートを取りました。それには「教会生活の中で、神が一番真実な方で、身近に居られる方であると感じられたのはどの部分ですか」という質問がありました。今までの回答によると、礼拝の賛美歌が教会で歌われる時と、聖餐式が行なわれている時に、主の臨在が一番はっきりと感じられると言うのが一番多いようです。生徒たちは主の家の敬虔さということを正しく理解し、大切にしています。なぜならばそれによって礼拝の雰囲気作られるからです。

六、共にささげ物をする機会 中学生がキリストによる救いを受け入れたならば、洗礼を受け、教会員になることができます。会員になると、教会の働きを共に進めるといふ責任が負わされます。その働きがどういうものであるかがわかれば、興味も湧くでしょうし、協力もするようになるでしょう。その基礎を置くために、ある中学科の主任は、毎年教会の会計を招いて教会の予算と必要について話してもらいました。会計は黒板を使って、暖房代、電気代、修理代、聖書学校や孤児院、国内伝道部、海外伝道部への献金など、教会の計画を全部実行するために幾らかかるかということの説明してくれたとのことでした。



事業に投資をしようとするとする人は、その結果に大変な関心を示します。投資するものはお金でも、時間でも、個人的な関心でも皆同じです。中学生の献金は極めてわずかに見えるかも知れませんが、しかしそこに含まれている可能性は無限にあるのです。中学生が教会の種々の計画に参加しながら、教会の中で成長していくならば、やがて主のために働く、立派に成人した働き人ができ上がっていくのです。

宣教についての教育も、日曜学校の訓練の一つです。中学科の生徒は皆、自分たちの教会が援助している宣教師や、その宣教師が働いている国のことや、そのほかいろいろ、宣教に関する興味深い事実を良く知っているようにさせなければなりません。

教会は中学生一人一人に対し、歓迎の意を示し、愛と関心を示さなければなりません。そして教会は生徒一人一人に、教会の持つ霊的価値、不変の教理、ゆらぐことのない神に対する信仰を提供しなければなりません。それは日曜学校と教会が、中学生を獲得し、保ち続けるという目的に向かって、しっかりと協力していく時に初めて達成できることなのです。

## 質 問

一、中学生の興味を引き、保ち続けるために、あなたの教会がしていることを四つあげなさい。それを注意深く研究し、弱点を調べ、改善すべき点をあげなさい。

二、最近三か月間に、生徒の救われていない両親を導くために、中学科は何をしましたか？

三、中学生の人生を決定する三つの影響力とは何ですか？ そのうち一番強いのはどれですか？ その理由は？

四、あなたの記録を見ると、あなたのクラスまたは科の中で、何人の生徒が教会の集会に出席していませんか？ その生徒の家庭は皆、未信者ですか？

五、あなたの宣教に関する計画は、生徒たちの活動が教会の宣教計画にもあてはまるように、十分に検討して作ってありますか？

## 第十章 目標の吟味と評価

「わたしは心をつくし、知恵を用いて……行われるすべてのことを尋ね、また調べた。」(伝道の書一・二三)

月日のたつのは早いもので、新任の中学科主任が働き、学び、研究し、祈った、あの十二月も過去のものとなりました。その間、毎学期、長所と短所、新しい方法と古い方法、理論と実際、成功と失敗などが比較検討されました。評価によって理解が生まれ、理解によって改善がなされました。

私たちは中学生をキリストに獲得し、結び付け、訓練しなくてはなりません。あなたの記録によれば出席は増加しましたか？ 同じですか？ それとも減りましたか？ 毎学期、自分の働きを反省することは必要だと思います。この章に出てくる、テストや評定の問題は中学科主任や職員が、前に出てきた目的を評価するのに役立つと思います。それは皆、長所、短所を拡大して示し、改善の必要な分野を指摘するために作ったものです。

### 中学科主任のテスト

(改善されたか、不満足な結果であったか調べながら、答えを書く)

- 一、最近三か月間に、日曜学校中学科の働きに関する本を何冊読みましたか？
- 二、読書または日曜学校大会に出席することによって得た新しい考えや提案を実際に用いましたか？
- 三、教師や役員とのあなたの関係は協調的で、一致と協力を促進するようなものですか？
- 四、中学科の生徒の名前を全部知っていますか？ 生徒との友情を育てるようになっていますか？
- 五、科に必要なものはすぐに見つけ、それを満たすように注意していますか？ 一つ一つの問題が解決できるように助けてあげますか？
- 六、今後、新しく教師になる人、役員になる人を見つけましたか？
- 七、新しく教師になろうとしている人が教師養成講座を受けるようにしてあげましたか？

### 中学科のテスト

- 一、登録されている生徒は一人も脱落していませんか？
- 二、今学期は何人新しい生徒が加わりましたか？ 先学期に比べて人数はふえていますか？
- 三、教師会にはいつも、科の教師と役員が全員出席していますか？
- 四、訪問計画は規則正しく行なわれていますか？ その結果はどうですか？ 結果が悪ければ、その理由をあげなさい。
- 五、生徒の未信者の両親に伝道をし、教会に導きましたか？
- 六、欠席者には全部連絡をしましたか？ 繰り返し欠席した場合には、電話をかけたか、訪問をしたり

しましたか？

七、今学期は何人の中学生をキリストに獲得しましたか？

## 教師会

定期的な教師会を開かなければ、どんな日曜学校も、またどの日曜学校の科も、その機能を十分に發揮して成功することはできません。活動状況を知らせ合い、一緒に計画を立て、方法を語り合い、問題の解決を努力すること——こういうことが日曜学校の教師を愛と奉仕のきずなの中に結びつけていくものなのです。しかし教師会も十分に計画を立てて開かないと、興味も出席者も失うことになってしまいます。教師会は毎月、週日の夜を一晚きめて当てるようにしたら良いのです。時には特別な行事があつて、時間を短縮しなくてはならないかも知れませんが、万止むを得ない時を除いて、中止してはいけません。そして計画を良く立てて、予定の時間内に終わるようにして下さい。予定の時間を超過して、忙しい教師たちを留めておくならば、次回から出席する人は少なくなってしまうです。

〔訳1〕教師だけでなく、科の役員たちも出席するのであるが、普通に教師会と言われているので、そのまま使うことにした。

〔訳2〕日本では夜出にくい人々も居ることを覚えなければならぬ。

## 教師会のテスト

- 一、今学期は何回教師会を開きましたか？
- 二、予定通りの時刻に始め、予定通りに終わりましたか？
- 三、会合はあらかじめ良く準備しておきましたか？ 変化に富んだプログラムを作っておきましたか？
- 四、問題を一緒に考えたり、考えや提案を出し合ったりしましたか？
- 五、教師が用いるように、どんな日曜学校の雑誌や本を備えましたか？
- 六、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団日曜学校部から提案されたプログラムや、計画や考えを教師たちに紹介しましたか？

## 開校礼拝

分級前の合同集会についてはずいぶん間違った考えがあるようです。これは、あとに続く学課の学びのために、生徒たちの心備えをさせるためにある時間です。この最初の時間の中に、学課に対して心を開かせよう、霊的雰囲気を作り出す機会があるのです。ある日曜学校は設備の点で恵まれていないかも知れません。そして他の年令のグループと一緒に開校礼拝をしなくてはならないかも知れません。それでもな注意深く、祈り深く計画することはできるはずです。

## 開校礼拝のテスト

- 一、開校礼拝は中学生が特に興味を覚えるような主題を中心に計画し、一つの型にはまってはいませんか？
- 二、今学期は中学生と一緒に計画した開校礼拝は何回ありましたか？ 実際に参加した礼拝は何回ありましたか？
- 三、歌は毎週、その時の主題に合わせて選びましたか？
- 四、この集会のムードを静かな音楽、ある厳肅な考えを示すこと、黙禱などによって作るようにしましたか？
- 五、ピアノリストや司会者は休まずに出席し、遅刻をしませんでしたか？

〔訳3〕

〔訳3〕前述の通り、オルガニストと考えて良い。

## 教師

教えることは愛の働きです。第一にそれは、最も偉大な教師であったキリストに対して愛をささげることです。第二に、それは生徒に対して愛をささげることです。生徒が救われ、クリスチャンの道に真直ぐに強く成長することを望む、心からの願いでもあります。教師はこの奉仕の学校から卒業することがあり

ません。教師は絶えず、自分の教授法の向上を求め、学課の真理を完全に提示することを求め、また、神のみ言葉や、生徒や、生徒の必要などについての知識を増加することを求めて努力し続けなくてはならないのです。そのためには執拗さと決意がなくてはできません。けれども、技能の向上という素晴らしい報いが必ず与えられることを覚えて下さい。

## 教師のテスト

満点は百点です。自分自身を正直に、正しく、各項目の点数に従って採点して下さい。

### A、出席 (十二点)

- 一、今学期は毎日曜日出席しました。
- 二、出席不可能の場合は、代わりの教師が準備できるように、充分事前にそのことを知らせました。
- 三、毎日曜日遅刻をしませんでした。それは開校時刻十分前の、いわゆる「教師の時間」のことです。

### B、準備 (二十一点)

- 一、学課の勉強を週の初めから開始しました。
- 二、毎日曜日、興味深い学課のいとぐちを準備しました。
- 三、生徒の日常生活に適應できる例話を毎週準備しました。

- 四、日曜学校の時間には、肉体的にも最高の状態であるように努力しました。
- 五、中学生の必要を満たすような、實際生活の問題に関する真理を学課の中心として教えました。
- 六、学課の準備に当たっては、毎日、聖霊の導きを祈り求めました。
- 七、教室は生徒が来る前に、魅力的に整え、一切の準備をしておきました。

#### C、授業 (二十四点)

- 一、時間前に親しみやすい雰囲気を作り、静けさと秩序をもたらすようにしました。
- 二、学課の内容を良く知り、楽に話をし、思想をはっきり表現することができました。
- 三、生徒たちから、彼らの日常生活に対する学課の適用について適切な質問を引き出すようにしました。
- 四、授業中ずっと、興味を維持することができました。
- 五、教える際には黒板を利用し、必要に応じて地図も用いました。
- 六、祈りと研究を充分にして授業に臨んだので、神はみ言葉をむなしくは帰らせないという確信がありました。

#### D、模範 (十二点)

- 一、親しみのある態度によって、生徒一人一人は愛されており、必要とされているのだということを示してあげました。

- 二、開校礼拝には敬虔で、注意深い態度をもって臨むようにしました。
- 三、教会の集会には祈禱会も含めて、忠実に出席しました。
- 四、私のキリストとの日々の歩みや、絶えざる祈りの生活を通して、御霊の実が現わされました。

#### E、連絡 (十五点)

- 一、今学期の間に、生徒の家庭は全部少なくとも一回訪問しました。
- 二、生徒の未信者の両親と親しくなり、教会や日曜学校に来てみるように、関心を引くように努力しました。
- 三、欠席した生徒とは電話や文書によって密接な連絡を保ちました。
- 四、生徒をより良く理解するために、生徒自身のこと、興味や家庭環境などに関する身上書を作成し保存しました。
- 五、教師会に出席し、科の主任には完全に協力しました。

#### F、向 上 (十六点)

- 一、毎年行なわれる教師講座には出席し単位を取りました。
- 二、科の計画や活動には全部参加し、与えられた責任は果たしました。
- 三、自分の教団から出ている日曜学校月刊紙を必ず読みました。
- 四、今学期の間に日曜学校の働き、または、中学科に関する本を一冊読みました。

同じような家庭は二つとありません。ですから訪問も皆違ったものになります。その家庭に住んでいる人々の人格によって、訪問はそれぞれ違ったものになるのです。ですから日曜学校の訪問をする人は、適切な話し方と洗練された交渉の仕方をすぐに感じとることが必要です。

あなたの訪問を次の規則から調べてみて下さい。

- 一、聖霊に導かれるように祈ること。
- 二、きちんと魅力的な身なりをすること。しかし飾りたてないこと。
- 三、玄關で自分の教会、自分の科、そして自分の名前を紹介すること。
- 四、親しみをこめた関心を示すこと。但し物好きだとか好奇心からそうしているのだと思われないように注意すること。
- 五、訪問の目的を告げ、特に要請されるのではないならば、短く切り上げること。
- 六、両親には、その子供を自分のクラスにあずかっていることを感謝していることを知らせること。現在行なわれている組の計画や、興味深い活動について説明をすること。
- 七、教会に出席していない人々には、教会出席を強調し過ぎて、かえって当惑させないようにすること。できるだけ早く教会に来るように、丁寧に親しみをこめて招待をすること。

八、ただ一回で訪問をやめ、最初の訪問が最後の訪問とならないようにすること。

### 身上書

生徒と生徒の必要としていることを更に完全に知るために、記録をとっておくことが良いと思います。中型のノートを用い、一人に数ページを使うようにします。この身上書、または個人調査書は完全に秘密文書として取り扱って下さい。それは、この身上書は教師が生徒をより良く理解するという目的のためのみ、作られたものだからです。その例を次に示します。

氏名——平木 修  
 住所——内田町1140番地  
 年 令——13才 誕生日——3月6日 学 年——中学2年  
 両親は救われているか？ 母 ○ 父 \_\_\_\_\_  
 両親は教会に続けて出席しているか？——いない したことがあるか？——な い  
 子供はほかに居るか？——いない  
 家庭はどのような家庭か？ (標準 \_\_\_\_\_ 標準以下 \_\_\_\_\_ 標準以上 ○)

学校での成績は良いか？——普通  
仲間とうまくやっているか？——いい  
指導性を持っているか？——いい  
好きな勉強科目は何か？——歴史  
趣味は何か？——切手収集と模型飛行機  
日曜学校は休まず出席するか？——する  
礼拝に残るか？——残らない 救われているか？——いい  
私の目的は何か？——彼をキリストに導くこと。日曜学校と教会に結び付けること。両親を獲得すること。  
と。C・Aに興味を持たせること。クリスチャンの友だちをもたせること。

### 生徒への質問

生徒の望んでいることを見つける一番良い方法は生徒自身から聞くことです。生徒はまだ自分のことを完全に理解する年齢ではありませんから、自分の必要としているものが何であるか全部わかっていないわけではありません。感情的にも混乱したり、ごちゃごちゃに混じったりして定まりませんが、日曜学校や教会には霊的な価値があることは、はっきりと認めています。次に示すアンケートは中学生に、自分に必要とするものが何であるかをはっきりさせ、物事を深く考えさせ、霊的なことに関する知識の度合いを示す

のに役立つと思われまます。教師もそれによって必要なカウンセリングや指導をすることができます。

### 中学生の知識度のテスト

答えは「はい」か「いいえ」で答えなさい。次の質問について日曜学校で満足な答えを学んだならば、「はい」に×印をつけ、そうでなければ「いいえ」に×印をつけなさい。

- 一、私たちは聖書をどのようにして手に入れたのですか？ はい  いいえ
- 二、聖書は皆真実であるということは、どのようにしてわかりますか？ はい  いいえ
- 三、どうして神とイエス・キリストと聖霊は一人なのですか？ はい  いいえ
- 四、私たちが祈る時、神様はいつも聞いて下さいますか？ はい  いいえ
- 五、なぜ神様は戦争や苦しみが起こるのを許しておくのですか？ はい  いいえ
- 六、神様が居ることはどうしてわかりますか？ はい  いいえ
- 七、クリスチャンはリクリエーションや娯楽についてどうすることが正しいのですか？ はい  いいえ
- 八、私の良心は神が私に語りかけている声ですか？ はい  いいえ
- 九、救われてから罪を犯したら、また失われますか？ はい  いいえ
- 十、神のために生きるとはどういうことですか？ はい  いいえ

- 十一、どのようにしたら自分の人生に対する神の御計画を知ることが出来ますか？ はい  いいえ
- 十二、救われていない同級生を友だちにすることは間違っていますか？ はい  いいえ
- 十三、私の日常生活における聖霊の満たしとはどういふものですか？ はい  いいえ
- 十四、私たちの教会の根本教理とは何ですか？ はい  いいえ
- 十五、少年と少女の関係についてのクリスチャンの標準を理解し、受け入れましたか？ はい  いいえ

## 教会

教会には、若い十代の少年少女の面倒を見るといふ責任が与えられています。教会は彼らの中に強い信仰を常に育てていかなければなりません。教会は燈台のように、彼らの歩む道を示してあげなければなりません。教会は彼らにとっては、神を礼拝し、神を更に良く知るために学ぶ場所であります。ここで中学生は自分の家に帰った時のようにくつろぐことができ、理解、同情、慰め、助け、励まし、導き、友だちなどを見いだすことができなければなりません。

あなたの教会は、教会内の中学校の少年少女たちの必要を適切に満たしているでしょうか？ 次の文一つ一つに、「はい」または「いいえ」で答えて下さい。

## 教会のテスト

- 一、私たちの教会はこの年令の子供たちの必要や興味を満たすために総合的な計画を立てています。はい  いいえ
- 二、青年伝道が強調されています。はい  いいえ
- 三、おとなの会員は中学校の生徒に心からの関心を示しています。はい  いいえ
- 四、教会の集会でも、中学生が何か役割を果たす機会がしばしば与えられています。はい  いいえ
- 五、教会の働きを通して、少年少女の中に、クリスチャン品性や日常行動の正しい習慣が育てられています。はい  いいえ
- 六、神の家を尊ぶことが少年たちに打ち込まれ、年上のクリスチャンが自らその模範を示しています。はい  いいえ
- 七、中学生たちは夏の青少年キャンプに出席し、そこで指導性を養われ、楽しい交わりをし、靈的真理を教えられています。はい  いいえ

教会と日曜学校は堅固な要塞のようにそびえ立ち、青少年に対しては門戸を広く開放するべきです。そして教会と日曜学校は共に、この中学生という興味深い人々を守り、訓練し、導き、助けようとして常に準備を整えていかなければなりません。



- Christman, D. Grant, *Best Things in the Bible*, Beacon Hill Press Company.  
 Eavey, C. E., *Principles of Teaching for Christian Teachers*, Zondervan Publishing House.  
 Emurian, Ernest K., *More Dramatized Stories of Hymns and Hymn Writers*, W. A. Wilde Company.  
 Griffiths, Louise B., *Wide as the World*, Friendship Press.  
 Hurlbut, J. L., *Bible Atlas*, (Historical and Descriptive), Rand McNally and Company.  
 Klink, Arthur, *Home Life in Bible Times*, Concordia, Publishing House.  
 Mackie, George M., *Bible Manners and Customs*, Fleming H. Revell Company.  
 Mears, Henrietta C., *Jesus, the Christ*, The Gospel Light Press.  
 Myers, A. J. William, *Teaching Religion*, The Westminster Press.  
 Sanville, George W., *Forty Gospel Hymn Stories*, The Rodeheaver-Hall Mack Company.  
 Sharp, G. J., *Why We Believe*, The Standard Publishing Company.  
 Smith, William, *A Dictionary of the Bible*, The John C. Winston Company.

### 訳者あとがき

本書は、アメリカのアクセス・ブリーズ・オブ・ゴッド教団日曜学校部が Gospel Publishing House から出している Sunday School Handbook Series の中の一冊である。このシリーズは幼児科から成人科まで、各料ごとに計九冊出しており、日曜学校の教師は、自分の受持ちの科についてはこのシリーズの本をテキストとした講座を受け、資格を取らなくてはならないようにされているものである。

先に訳者はこのシリーズの前身である Sunday School Workers Manual の中から Beginner Workers Manual と Primary Workers Manual を翻訳し、日本の実情に合うように編集し直し「教える秘訣」という表題をつけて出版した。シリーズはその後改訂されたのであるが、本書は姉妹図書であることに変わりがないので、本書の表題は「教える秘訣 中学科編」とした。

訳出にあたって、聖句の引用は日本聖書協会発行、口語訳聖書により、聖書に出てくる以外の人名、地名は主として原語の発音に準拠した。また例話の中に出てくる人物は実名ではないので、思い切って全部日本人名に変えて登場させた。これはあるいは訳者の行き過ぎで、原文名のままの方が良かったかも知れない。日本の実情とは異なり、説明が必要と思われるところには「訳1」「訳2」として訳者の註を入れて補足した。

原本は一人の信徒が中学科主任に新しく任命され、いろいろな疑問や質問を解決しながら前進をし、最後に自分のしてきたことを反省するという構成を持っており、それはそのまま中学科の教師、役員の体験

に適應できる仕組みになっている。しかし各章の構成を見ると、極めて教科書的で、余り前後の關係なしに新しい事が次々と紹介されている。文章はビジネス的であるので、一層、前文とのつながりが無く、戸迷う思いをしたことも少なくなかった。その点を訳者の理解範囲において訳出する努力をしたつもりであるが、原著者にとっては迷惑であったかも知れない。

日曜学校の働きは、本書に記されているように、生徒にキリストを救い主として知らせ、恩寵のうちに生長させることである。それは新生以前の問題と新生以後の問題の両方を取扱う。だから日曜学校は単に小学生だけを集めて、遊戯をしたり、イエス様のお話を楽しくしてあげるだけではない。小学生は中学生になり、中学生は高校生になり、そして更に生長していく。幼ない時に福音の種をまいておけばやがて芽を出すと言って、小学科の働きに幾ら重点を置いても、小学校卒業と同時に日曜学校または教会の手が差し伸べられなくなれば、子供たちは当然、み言葉を忘れ、教会からも神からも離れて行ってしまうようになる。ここに今までの日本の日曜学校の悲劇があったように思える。私たちは折角六年間、あるいはそれ以上手塩にかけてきた子供たちを、中学入学と同時に手放さなければならぬ理由はないと思う。かえって、今までの働きはこの日のためであったと考へ、中学時代にこそ真のクリスチャン体験を持つように、教師は主にあつて一層の努力をしなければならぬと思う。

そのような意味合いから、日曜学校は嬰兒科から成人科まで、あらゆる年齢層の人々に働きかける態勢を整えなければならない。その中でも特に、最も脱落者が多い、しかもまた最も素晴らしい結果の表われる中高生に対する働きを強力に推進することが必要である。訳者自身の小さな牧会経験からも、中学時代

に入信をし、高校時代には奉仕を開始することが一番望ましいように思われる。おとなと子供の中間に存在する、この扱いにくい中間の年代、それはまた、今日の教会と明日の教会を結び付ける重要な鍵を握っている年代でもある。

訳者自身、本書の内容に完全に満足しているわけではない。訳者が一番願っていることは、本書によって、日本の真実な教会とクリスチャンが、日曜学校の働き、特に中学科の働きの重要性を改めて自覚させられ、主の御助けを求めつつ、積極的な行動に足を踏み出して行くことである。中学科の時代は短い。たった三年間である。この期間における教会または日曜学校側の怠慢は永遠の悔いとなりかねないものであることを訳者は厳粛に感じさせられているのである。

本書出版の日時がさし迫っており、十分な推敲をする時間がないため、読みづらい所だらけであることを承知の上、出版することを深くおわびしなければならぬ。

最後に字句の訂正、その他に労をとられた大船神召教会員 石井義一兄に心から感謝の意を表わさせていただきます。

一九六八年二月

伊藤 顕 榮

教える秘訣 中学科編

© 1968

1968年3月15日 初版発行

1976年9月15日 第二版発行 定価 1000円

著者 アイネス M. スペンス

訳者 伊藤 顕 栄

印刷 ときわ印刷株式会社

発行所 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

日曜学校部

東京都豊島区駒込3の15の20

振替東京0-10877番 電話(918)0497